

## 人文科学分野

**科目 哲学** 2単位

担当 講師 金成祐人 / 講師 源河 亨

喜び、楽しみ、怒り、悲しみ、といった感情は人の生活のなかで重要な役割を果たしています。そのため感情は人間が対象となるすべての分野で研究されており、もちろん、哲学も例外ではありません。現代哲学は現象学と分析哲学とに分けることができますが、金成が担当する前半（第2回から第6回）では現象学から、源河が担当する後半（第7回から第11回）では分析哲学から感情にアプローチします。

〔第1回〕 全体のイントロダクション

〔第2回〕 感情の哲学史概観

〔第3回〕 気分の現象学的分析—ハイデガー『存在と時間』の気分論を中心に

〔第4回〕 気分による安定した生への揺さぶり—根本気分としての不安

〔第5回〕 退屈の三つの形式

〔第6回〕 感情と道徳

〔第7回〕 感情の志向性

〔第8回〕 無意識の感情

〔第9回〕 感情と合理性

〔第10回〕 感情の分類

〔第11回〕 感情と価値

〔第12回〕 試験と総括

## ◆テキスト

・プリントを適宜配布します。

## ◆参考文献

・ジェシー・プリンツ『はらわたが煮えくりかえる』（勁草書房、2016年）（源河担当分）

※その他の参考文献については講義内で紹介します。

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

哲学に関する予備知識は特に必要ありません。

## ◆成績評価方法

最終日の試験結果により成績を評価します。

**科目 論理学** 2単位

担当 講師 杉本雄太郎

## 〔概要・目的〕

この講義では思考、推論や論証が「正しい」とは一体どういうことなのか、また論理的に「正しく推論する」こと、すなわち「仮説や前提から、正しい方法で結論に到達する」ことについて、論理学の立場から解説します。そのために、論理学の基本的体系である「命題論理」について取り上げ、主に意味論と証明論とい

う二つの側面から検討します。

## 〔目標〕

上記の意味論・証明論という論理学の二つの側面について、真理表による真理値分析および自然演繹体系を用いた証明という二つの方法を使って、推論の正しさを判定できるようになることが目標です。

## 〔講義形態〕

基本的には講義形式で行ないますが、実際に練習問題を自分の手で解いていくことにより、上記の二つの方法（真理値分析・自然演繹）を習得して頂きます。

〔第1回〕 導入—推論とは？ 論理学とは？

〔第2回〕 日本語文の形式化と形式言語

〔第3回〕 命題論理の意味論Ⅰ—真理表・真理値分析

〔第4回〕 命題論理の意味論Ⅱ—同値変形／真理値分析による推論の妥当性の判定

〔第5回〕 命題論理の意味論Ⅲ—恒真・矛盾・整合／真理値分析に基づく矛盾と整合性の判定

〔第6回〕 命題論理の意味論Ⅳ—トートロジー、推論の妥当性、命題のあつまりの整合性・矛盾という概念の間の関係／中間テスト

〔第7回〕 命題論理の証明論Ⅰ—推論の形式化／導入規則と除去規則

〔第8回〕 命題論理の証明論Ⅱ—自然演繹の推論規則：連言・否定

〔第9回〕 命題論理の証明論Ⅲ—自然演繹の推論規則：条件法・選言

〔第10回〕 命題論理の証明論Ⅳ—自然演繹の推論規則：矛盾・背理法

〔第11回〕 命題論理の証明論Ⅴ—最小・直観主義・古典論理／自然演繹による矛盾の導出

〔第12回〕 総括—意味論と証明論の関係 および試験

## ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特別な知識は特に仮定いたしません。

## ◆成績評価方法

講義中に行なう中間テスト、講義最終回に行なう試験の成績、および平常点を総合的に判断して評価します。

**科目 倫理学** 2単位

担当 講師 吉田修馬

「倫理」とは、もともとは、人間がよく生きる上で大切にすべき物事のことであり、人間が社会の中で守るべきルールのことです。

倫理には、大ざっぱに言うと、「人間の理想の生き

のデストピアに陥っていると言えないだろうか。本講義では「労働」の概念と「欲望」の概念の再検討を通して、近代という時代の特殊性を浮き彫りにすると同時に、その諸問題の淵源を考察していきたい。

- 〔第1回〕 アレントによる労働、仕事、行為の分類
- 〔第2回〕 トマス・モアの『ユートピア』における労働
- 〔第3回〕 宗教改革における労働観の転換（ヴェーバー）
- 〔第4回〕 経済学の生誕と労働の格上げ（ロック、スミス）
- 〔第5回〕 啓蒙と労働の新しい意味付け（ヘーゲル）
- 〔第6回〕 労働と規律訓練権力（フーコー）
- 〔第7回〕 福祉国家と生命権力（フーコー）
- 〔第8回〕 奢侈批判のユートピア（フェヌロン、ルソー）
- 〔第9回〕 奢侈肯定と経済学的自由主義（マンデヴィル、ヒューム、スミス）
- 〔第10回〕 フーリエのユートピアにおける労働と情念の解放
- 〔第11回〕 資本主義社会における欲望と権力（ドゥルーズとガタリ）
- 〔第12回〕 試験と総括

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

- ・坂本達哉『社会思想の歴史』（名古屋大学出版会、2014年）（市販書採用科目「社会思想史」テキスト）
- ・野地洋行編『近代思想のアンビバレンス』（御茶の水書房、1997年）
- ・太田義器、谷澤正嗣編『悪と正義の政治理論』（ナカニシヤ出版、2007年）
- ・マックス・ヴェーバー、大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波書店、1988年）
- ・ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫、1994年）
- ・ミシェル・フーコー『監獄の誕生』（新潮社、1977年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業時に質問をするなど積極的に参加することを期待する。

#### ◆成績評価方法

出席状況、授業での積極性、最終日の試験により総合的に評価する。

編集者・文学者などとの交流の体験も語りたい。莫言の『赤い高粱（紅いコーリャン）』や余華の『活きる』、鄭義の『古井戸』など映画化された作品はDVDやYouTubeなどの映像を使いながら解説していく。果たして中国のんびりにとって「文学」とは何だったのだろうか？ 我々にとっては「文学」とは何であろうか？

- 〔第1回〕 「近代」以前の中国文学（〈漢文唐詩宋詞元曲〉と明代の〈白話小説〉）
- 〔第2回〕 近代文学への胎動（「西洋の衝撃」から五四運動「文学革命」へ）
- 〔第3回〕 〈革命文学〉を唱えた日本留学生（「創造社」と日本の作家たち）
- 〔第4回〕 新しい「家族」を求めて（巴金と島崎藤村の二つの『家』）
- 〔第5回〕 政治と文学の狭間に生きる（延安『文芸講話』の光と影）
- 〔第6回〕 〈人民文学〉の誕生（労働者・農民のための文学・革命の「軍隊」）
- 〔第7回〕 「大躍進」から文化大革命へ（多くの犠牲を生んだ毛沢東の実験）
- 〔第8回〕 中国の「文芸復興」が始まった（改革開放・揺れ動く政治・感性の目覚め）
- 〔第9回〕 主体性を模索する「台湾文学」（大陸とは別の時空をもった「中国語文学」）
- 〔第10回〕 中国の〈ディアスポラ作家〉たち（流血の「天安門事件」と文学者の変貌）
- 〔第11回〕 二人のノーベル賞受賞者（最新中国文学の面白さ、生き方を探る“80后”）
- 〔第12回〕 総括——イーユン・リーとカズオ・イシグロ

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

- ・大沢昇『現代中国—複眼で読み解くその政治・経済・文化・歴史』（新曜社・2013年）
- ・大沢昇『クジラの文化、竜の文明 日中比較文化論』（集広舎・2015年）。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

中国のアヘン戦争以降の近・現代史、特に五四運動以後の流れを大まかに理解していることが望ましい。

#### ◆成績評価方法

平常点と最終総括時にまとめる課題レポート。

## 科目 近代思想史

2単位

**担当** 講師 篠原洋治

近代社会を、国家によって管理された市場経済に基づく市民社会と捉えることにはさほど異論はないだろう。多くの留保を必要とするものの、少なくとも先進諸国では、自由で平等な社会が少なからず実現されてきた。しかし他方で近代は、そうした社会の秩序維持のために「労働」を管理する権力が著しく発展し、社会の隅々まで浸透してきた時代であり（フーコー）、また、諸個人の「欲望」が、市場システムや科学的言説を媒介に誘導されてきた時代である（ドゥルーズとガタリ）。その意味で、諸個人の自由・自立をめざした啓蒙のユートピアは、逆に、自由を抑圧するある種

画における様式展開を概観しましょう。

- 〔第1回〕 講義全体の概略。美術史学における様式論とイコノロジー。ピエロと美術史学。
- 〔第2回〕 西洋美術における写実と理想。ピエロとルネサンスの人体表現。
- 〔第3回〕 西洋近代絵画における空間表現の変遷。
- 〔第4回〕 15世紀前半のフィレンツェにおける遠近法の成立。アルベルティの『絵画論』。ピエロとフィレンツェ美術。
- 〔第5回〕 ピエロの『絵画のための遠近法』。
- 〔第6回〕 ルネサンスの壁画連作における空間表現と構成。
- 〔第7回〕 ピエロとルネサンスの壁画技法。
- 〔第8回〕 ピエロとルネサンスの風景表現。
- 〔第9回〕 ピエロと北方絵画。ピエロとウルビーノ宮廷。
- 〔第10回〕 ピエロ後期における技法と様式の変化。
- 〔第11回〕 ピエロと西洋近代絵画。ピエロ批評史。
- 〔第12回〕 総括。

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

- ・石鍋真澄『ピエロ・デッラ・フランチェスカ』（平凡社、2005年）
- ・ロベルト・ロンギ『イタリア絵画史』和田忠彦他訳（筑摩書房、1997年）
- ・ハインリヒ・ヴェルフリン『美術史の基礎概念』海津忠雄訳（慶應義塾大学出版会、2000年）
- ・ケネス・クラーク『風景画論』佐々木英也訳（ちくま学芸文庫、2007年）
- ・エルヴィン・パノフスキー『〈象徴形式〉としての遠近法』木田元監訳（筑摩書房、2009年）
- ・レオン・パッティスタ・アルベルティ『絵画論』三輪福松訳（中央公論美術出版、2011年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

予備知識は特に必要ありません。作品をよく観て、ご自身でしっかりと考えてください。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験で評価します。ただし、出欠や授業での発言も加味します。

## 科目 文学C

2単位

**担当** 講師 大沢昇

中国現代文学「中国における《文学の夢》の変遷」「中国の夢」を唱え、米国と政治、経済、軍事などで肩を並べようとしている中国。さまざまな権力・権威の重圧のもと、「個人の夢」をつむぐ文学はどのような意味をもつのか？「西洋の衝撃」を受けたアヘン戦争後、とりわけ近代文学が始まった五四運動以降の流れを俯瞰しながら、中国人にとって文学とは何だったのかを日本との関係を交えながら考えていきたい。魯迅や郭沫若など日本と関係の深い文学者、あるいは毛沢東や江青などの政治家の文学観、また台湾や香港、海外に移住した華人の文学作品なども読み比べながら時系列を踏まえ、スライド（PPT）を使って講義していく。40年近くの出版社勤務で知り合った中国の

方、「社会で守るべきルール」、「善悪や正不正の判断基準」という三つの意味があります。

「倫理学」とは、そのような倫理について論じる哲学の一分野です。「哲学」とは、物事を根本的・原理的に考える学問です。つまり、人間の生き方、社会のあり方、善悪や正不正の判断基準について、つきつめて考えるのが倫理学です。

本講義では、西洋倫理学史における代表的な思想家を取り上げながら、倫理的な問いを論じていきます。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 プラトンとアリストテレス
- 〔第3回〕 デカルトとホブズ
- 〔第4回〕 ヒュームとスミス
- 〔第5回〕 モンテスキューとルソー
- 〔第6回〕 カントとヘーゲル
- 〔第7回〕 ミルとベルクソン
- 〔第8回〕 マルクスとニーチェ
- 〔第9回〕 サルトルとフーコー
- 〔第10回〕 ウェーバーとハーバーマス
- 〔第11回〕 ロールズとセン
- 〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・柘植尚則編著『入門・倫理学の歴史——24人の思想家』（梓出版社、2016年）ISBN 978-4-87262-038-2

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

倫理学に関心があるかを歓迎します。予備知識は必要ありません。ただし、答えが簡単に見つからない問題について、「考え方や価値観は人それぞれだ」で終わるのではなく、粘り強く考えることを厭わないかたを期待します。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験に、出席状況を加味して評価します。

## 科目 芸術（美術）

2単位

**担当** 講師 林克彦

本講義では、イタリア15世紀の画家ピエロ・デッラ・フランチェスカ（1412年頃～1492年）の様式の分析を通じて、ルネサンス絵画の理解を深めるとともに、西洋絵画における空間表現の変遷についても考察します。ピエロは、プルネツレスキ、ドナテッロ、マザッチョ等の革新的な美術家の登場によって15世紀前半にフィレンツェで開花したイタリア・ルネサンス美術の合理的な精神を継承し、光と色彩あふれる独自の絵画世界を創り上げると同時に、遠近法に関する理論書を著しました。このため、ピエロは西洋美術史上できわめて重要な位置を占めると見なされています。西洋近代絵画の母体となったルネサンス絵画の様式は、ジョットからミケランジェロにいたるフィレンツェ派のディセーニョすなわち「線」の様式と、ジョヴァンニ・ベリーニに始まりティツィアーノにおいて頂点に達するヴェネツィア派の「色」の様式に大別されます。これらの二つの異なる視覚形式を繋ぐのが、マザッチョが手がけ、パオロ・ウッチェッロやピエロが完成させた遠近法に基づく幾何学的かつ建築的な「面」の様式です。ピエロの諸作品を読解しつつ、西洋近代絵

## 社会科学分野

<b>科目</b> 法学（憲法を含む）	2単位
<b>担当</b> 講師 高田久実	

現代社会における日々の生活が、「法」の存在を無視して成り立つものでないことは周知の事実であろう。そのような「法」をめぐる知見を深めるため、法学を学ぶ基盤を形成することが本講義の目的である。法学を理解するうえで基本的かつ重要な論点を考察することにより、法的な知識および思考の獲得を目指す。

〔第1回〕 開講にあたって・法学に関する基礎文献について

〔第2回〕 「六法」の利用・法令の構造・難読難解法律用語

〔第3回〕 法令用語をめぐって・法律格言

〔第4回〕 法規範および法存在の根拠をめぐる学説

〔第5回〕 法源（法の存在形式）—成文法と不文法

〔第6回〕 わが国における成文法

〔第7回〕 わが国における不文法

〔第8回〕 法の種類①

〔第9回〕 法の種類②

〔第10回〕 法の効力

〔第11回〕 法の解釈と適用

〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・霞信彦『法学講義ノート〔第6版〕』（慶應義塾大学出版会、2016年）  
ISBN 978-4-7664-2311-2

## ◆参考文献

・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年）

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講者には積極的に六法を引き、法律に親しんでもらいたい。ただし、「六法」については初回講義においてガイダンスをおこなうので、その後の購入をすすめる。

## ◆成績評価方法

講義最終日に筆記試験を実施する。出題形式等については、講義中に指示する。

<b>科目</b> 経済学	2単位
<b>担当</b> 講師 北條陽子	

本講義は、経済学の基礎知識を学ぶための科目です。経済学には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学とがあり、それぞれの入門的な内容を解説します。

経済学部を受講生には、今後専門的な内容や応用分野を学んでいくために不可欠となる土台作りを、他学部を受講生には、経済学的な考え方に触れて経済学に興味を持って頂くことを目標としています。

〔第1回〕 はじめに・市場について

〔第2回〕 需要と供給

〔第3回〕 需要の価格弾力性

〔第4回〕 消費者行動と生産者行動

〔第5回〕 市場メカニズムの効率性と限界

〔第6回〕 国民経済計算

〔第7回〕 物価の変動

〔第8回〕 マクロ経済における需要と供給

〔第9回〕 財市場—乗数効果

〔第10回〕 貨幣市場

〔第11回〕 財政政策と金融政策

〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

## ◆参考文献

・伊藤元重『入門経済学〔第4版〕』（日本評論社、2015年）

・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ篇〔第3版〕』（東洋経済新報社、2013年）

・塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』（新世社、2010年）

・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門〔第5版〕』（有斐閣、2016年）

## ◆成績評価方法

最終日の試験による。

<b>科目</b> 社会学	2単位
<b>担当</b> 文学部教授 稲葉昭英 / 文学部教授 鹿又伸夫	

現代日本の社会問題を取りあげ、社会的な分析を行います。前半は、社会問題を分析するための社会学の諸理論を解説します。後半では、近年の日本社会における問題の1つとして格差拡大を取りあげ、所得格差、貧困、貧富の世代間再生産、階層移動と地位達成などについて検討します。

〔第1回〕 社会問題への視点

〔第2回〕 役割理論：役割過重と流出効果

〔第3回〕 ラベリング論：逸脱行動の生成

〔第4回〕 メンタルヘルス論：精神障がいの発生とその後

〔第5回〕 合理的選択論：パニック・流言

〔第6回〕 社会的ジレンマ論：非協力による社会問題の生成

〔第7回〕 所得格差の拡大

〔第8回〕 貧困の増加

〔第9回〕 貧富の世代間再生産

〔第10回〕 階層移動と地位達成Ⅰ

〔第11回〕 階層移動と地位達成Ⅱ

〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・指定しない。

## ◆参考文献

・授業で適宜紹介する。

## ◆成績評価方法

出席および最終日の試験による。

<b>科目</b> 地理学	2単位
<b>担当</b> 講師 渡邊圭一	

地理学とは、地表上の空間における人間の諸活動を対象とする学問である。本講義は、都市に焦点を当てて、その歴史的推移と今日の現状、諸問題などについて学ぶことを目的としている。

18世紀末の産業革命以降、産業構造が第一次産業から第二次産業、さらにはサービス業に代表される第三次産業主体へと変容する中で、一貫して人口の都市への集中が進んでいる。特に、開発途上国では経済成長を通じて都市化が急速に進み、世界の総人口に占める都市人口の割合が農村人口のそれを上回るようになった。わが国でも、人口の過半数は東京、大阪、名古屋の三大都市圏に集中しており、特に東京大都市圏への一極集中が顕著である。近年では、一方で都心部の再開発と人口の都心回帰が進むとともに、他方でニュータウンに代表される急速に拡大した「郊外」は、高齢化により「オールドタウン化」に直面している。

本講義では、以下のトピックスについて、日本や世界の諸都市を事例として、都市地理学の見方、考え方を解説する。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 都市の概念

〔第3回〕 都市と地区

〔第4回〕 都市と自然環境

〔第5回〕 日本の都市システム

〔第6回〕 都市の機能分類

〔第7回〕 工業都市の盛衰

〔第8回〕 大都市圏の形成と発展

〔第9回〕 郊外住宅地の系譜

〔第10回〕 都心部の開発と再開発

〔第11回〕 学生発表

〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・藤井正・神谷浩夫編著『よくわかる都市地理学』（ミネルヴァ書房、2014年）  
ISBN 978-4-623-06723-7

## ◆参考文献

・高橋伸夫・村山祐司・菅野峰明・伊藤悟『新しい都市地理学』（東洋書林、1997年）

・杉浦章介『都市経済論』（岩波書店、2003年）

・杉浦章介・松原彰子・武山政直・高木勇夫『人文地理学』（通信テキスト、2005年）

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

## ◆成績評価方法

出席状況、期末レポート、およびレポートの発表による総合評価。

<b>科目</b> 社会科学特論	2単位
<b>担当</b> 名誉教授 秋山豊子 / 法学部教授 小林宏充 経済学部准教授 大平 哲 / 法学部准教授 金谷信宏 法学部准教授 青木淳一 / 法学部准教授 杉本憲彦	

〔授業の概要〕

環境問題のテーマである、循環型社会、生物多様性、温暖化対策について総合的に理解できるように、文系分野である法学と経済学、理系分野である物理学と生物学の担当者が、それぞれそれぞれの視点から講義します。

〔第1回〕 講義の目的（金谷）・法学からみた循環型社会（青木）

〔第2回〕 生物学からみた循環型社会（秋山）

〔第3回〕 物理学からみた循環型社会（小林）

〔第4回〕 経済学からみた循環型社会（大平）

〔第5回〕 法学からみた生物多様性（青木）

〔第6回〕 生物学からみた生物多様性（金谷）

〔第7回〕 経済学からみた生物多様性（大平）

〔第8回〕 物理学からみた温暖化の原因と現状（杉本）

〔第9回〕 生物学からみた温暖化対策（秋山）

〔第10回〕 物理学からみた温暖化対策（小林）

〔第11回〕 法学からみた温暖化対策（青木）

〔第12回〕 経済学からみた温暖化対策（大平）

## ◆テキスト

・慶應義塾大学環境ゼミ編著『法律・経済・自然科学から考える環境問題』（慶應義塾大学出版会、2017年8月刊行予定）

## ◆参考文献

・インターネット上の資料を紹介することもあるので、各自でインターネットにアクセスできることが望ましい。

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

環境問題に興味を持っている学生の受講を希望します。

## ◆成績評価方法

適宜行う小テストによる。

## 自然科学分野

<b>科目</b> 自然科学特論 A	2単位
<b>担当</b> 講師 戸金大	

本講義の目的は生物と生物および生物と環境との関係を学ぶことです。ある地域に棲む全ての生物と、それら生物を取り巻く無機的（非生物的）環境のまとまりを示す概念を生態系といいます。生態系の仕組みを

理解し、人間と生物の関わりや生態系保全について、受講生の皆さんと本授業を通して考えていきます。

〔第1回〕 はじめに—授業の概要

〔第2回〕 生態系と生物多様性その1

〔第3回〕 生態系と生物多様性その2

〔第4回〕 里山の生態系

〔第5回〕 島嶼の野生生物

〔第6回〕 人間と生物

## B

## 総合教育科目 外国語科目

## 英語

## 科目 英語（リーディング）A 1単位

担当 講師 井上愛子

本講座では、異文化間コミュニケーションに関わる重要概念を、英語を英語として読み理解する力を養成します。授業では、教材読解やロールプレイ、ビデオ教材を使ったディスカッションを行うことで、多角的に異文化間コミュニケーションを理解し、その実践に取り組みます。教材読解では、チャンク・リーディングの練習をしながら、速読スキルの習得を目指します。英語を英語で読む経験を増やすために、家庭学習用の課題を適宜出します。英語の基礎知識確認のために、毎回の授業冒頭に小テスト（英文暗唱を含む）を課していきます。

〔第1回〕 イントロダクション、リーディング・スキルの説明、診断テスト  
 〔第2回〕 小テスト Culture and Identity  
 〔第3回〕 小テスト Hidden Culture  
 〔第4回〕 小テスト Stereotypes  
 〔第5回〕 小テスト Communication by Words  
 〔第6回〕 小テスト Nonverbal Communication  
 〔第7回〕 小テスト Diversity  
 〔第8回〕 小テスト Perception  
 〔第9回〕 小テスト Communication Styles  
 〔第10回〕 小テスト Values  
 〔第11回〕 小テスト Deep Cultures  
 〔第12回〕 最終テストと総括

## ◆テキスト

・ジョセフ・ショールズ／阿部珠理『Different Realities 異文化間コミュニケーションー己を知る、相手を知るー』（南雲堂、2007年）ISBN 978-4-523-17565-0

## ◆参考文献

・授業内で適宜指示します。

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

皆さんはEnglish learnerからEnglish userへ変化していきます。受講前に、高校レベルの語彙と文法を復習しておくと効率が高まります。毎回の授業冒頭に小テストを行うので時間厳守での参加が必須です。

## ◆成績評価方法

平常点（授業への積極参加・英文暗唱）40%  
 小テスト 30%  
 課題 10%  
 最終テスト 20%

## 科目 英語（リーディング）B 1単位

担当 法学部教授 小屋逸樹

人間をそれ以外の生物と区別する際の最も大きな特徴と言われる「言語」の性質について学びます。世界にはどれぐらいの言語が存在し、それらの言語にはどのような共通性と多様性が見られるのか、また言語は私たちの社会生活にどのように関与し影響を及ぼすのか、効果的な言語学習をめざす上での大切な要因とは何か、等々のトピックに関し幅広く観察して行きます。併せて、日本語を客観的に見る目も養いたいと考えています。

〔第1回〕 The Dawn of Language  
 〔第2回〕 Do Animals Have Language?  
 〔第3回〕 The Rosetta Stone  
 〔第4回〕 Chomsky and Universal Grammar  
 〔第5回〕 Younger is Better  
 〔第6回〕 Misunderstandings about Bilingualism

〔第7回〕 Are Men's and Women's Speech Really Different?  
 〔第8回〕 Politeness  
 〔第9回〕 PC (Politically-Correct) Speech  
 〔第10回〕 What Makes a Good Language Learner?  
 〔第11回〕 Individual and Societal Multilingualism

〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・Shawn M. Clankie、小林敏彦『Language and Our World』（三修社、2007年）ISBN 978-4-384-33381-7

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

英語のみならず、さまざまな言語に言及しますので、人間と言葉というテーマに関心がある受講生を歓迎します。授業では、英語などの言語に比べて、日本語がどのような特徴をもっているかという点も議論します。

## ◆成績評価方法

最終日の試験に加えて、毎回の授業への貢献度として、積極的な発言や問題意識の提示なども評価の対象とします。

## 科目 英語（リーディング）C 1単位

担当 講師 赤羽俊昭

様々な英文を音読し和訳します。さらに〔第2回〕から〔第11回〕までは、事前に配布した短い英文を、

〔第7回〕 生態系破壊と生物多様性の減少  
 〔第8回〕 外来生物  
 〔第9回〕 生態系の保全（保全生態学とは。野生生物保全の現状）  
 〔第10回〕 野生生物保全その1  
 〔第11回〕 野生生物保全その2  
 〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

## ◆参考文献

・講義中に適宜紹介します。

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

生物や自然環境に興味があり積極的に授業に参加することを望みます。

## ◆成績評価方法

出席点と講義内で実施する課題と最終日の試験によって総合的に評価します。

ただし、30%以上欠席した者には単位を付与しません。

## 科目 統計学 2単位

担当 講師 中野諭

この講義では経済や日常生活における具体的な話題を取り上げながら、それらと関連するデータの読み取り方など統計学の基礎を習得することを目標としている。講義内容は以下を予定している。

〔第1回〕 データの整理  
 〔第2回〕 確率  
 〔第3回〕 確率変数とその分布  
 〔第4回〕 基本的な分布  
 〔第5回〕 標本分布（1）  
 〔第6回〕 標本分布（2）  
 〔第7回〕 母数の推定（1）  
 〔第8回〕 母数の推定（2）  
 〔第9回〕 仮説検定（1）  
 〔第10回〕 仮説検定（2）  
 〔第11回〕 線形関係の推定  
 〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

・森棟公夫『統計学入門〔第2版〕』（新世社、2000年）ISBN 978-4-88384-017-5

## ◆参考文献

・早見均・新保一成『基礎からの統計学』（培風館、2012年）

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

統計学の初学者を対象とするが、短期間で数多くの内容を取り上げるので、統計学（テキスト科目）レポートの既習者が望ましい。また、講義のなかで実際に練習問題を解く時間を設ける予定なので、ルートが計算できる電卓を用意すること。

## ◆成績評価方法

基本的には最終回の試験で成績評価を行うが、毎回講義の際に解く練習問題も加点対象となる。

## 科目 人類学 2単位

担当 名誉教授 高山博

ヒト（Homo sapiens）の定義を知っていますか？人類学的な定義には、他にもヒト属、ヒト科、ヒト上科という名称があって、広義にはすべて「ヒト」または「人類」として使われています。

この講義は、現生のヒト種（地質学的現世に生存している人類を包括する生物学的分類単位）が、35億年の生物進化の中でどのような位置に存在するかを考えることにしています。原始細胞から無脊椎動物、脊椎動物、哺乳類、霊長類へと進化の流れをたどりながらヒトの特徴、その起源と進化について最新の情報を提供したいと思っています。

冒頭の質問の答えの一つが「文化」なのですが、どのような「文化」がヒトを定義できるのかは講義の中で紹介するつもりです。

〔第1回〕 イントロダクション：人類学とはどのような学問か？  
 〔第2回〕 生物学的人間観・進化論の歴史-1：ダーウィンまで  
 〔第3回〕 生物学的人間観・進化論の歴史-2：ダーウィン以降～現代の進化論

〔第4回〕 日本の人類学  
 〔第5回〕 自然の中のヒトの位置-1：生命の起源～恐竜の絶滅  
 〔第6回〕 自然の中のヒトの位置-2：哺乳類の成立と進化  
 〔第7回〕 自然の中の人間の位置-3：哺乳類としての霊長類

〔第8回〕 霊長類の特長と進化  
 〔第9回〕 人類の進化-1：類人猿とヒト科の起源  
 〔第10回〕 人類の進化-2：ヒト科の分化とヒト属の起源  
 〔第11回〕 人類の進化-3：ヒト属の進化とヒト種の起源  
 〔第12回〕 人類の進化-4：ヒト種の分化と未来、到達度測定

## ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

## ◆参考文献

・中橋孝博『日本人の起源』（講談社、2005年）  
 ・溝口優司『アフリカで誕生した人類が日本人になるまで』（SB新書、2011年）  
 ・人類学教育普及委員会監修『つい誰かに教えたいくなる人類学63の大疑問』（講談社、2015年）

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特別な予備知識は必要ありませんが、高等学校までの英語、地理、世界史、中学校までの理科の基礎知識があることを前提として講義を進めます。

## ◆成績評価方法

毎回の出席を第一の評価対象にします。また、総合評価は最終試験のみでなく、講義中の小テスト・宿題も重視します。

和訳を見ながら暗唱してもらいます。

〔第1回〕 2016年に新しい形式となったTOEICのReading Sectionの問題に挑戦しましょう。教材は教員がプリントにして当日配布しますが、辞書を使わなくても良いように、注釈を付けておきます。予習は不要です。また、〔第2回〕の授業以降、開始直後に一人一人に暗唱してもらう10語から20語程度の英文をまとめたプリントを配布します。

〔第2回〕 授業開始直後、前回配布した暗唱プリントに取り上げられていた短い英文を、一人一人に可能な限り暗唱してもらいます。それが済みましたら、英語のニュース放送に挑戦してもらいます。まず最近のCNN Student Newsの映像を見て、どれだけ内容が理解できるかを確認しましょう。そのあと、放送された英語原稿をプリントにしたものを配布し、受講者を指名してその場で音読と訳読してもらいます。プリントには注釈をつけておきますので、予習は不要です。

〔第3回〕 プリント暗唱の後、英語のプレゼンテーションの読解に挑戦してもらいます。最近のTEDで取り上げられたプレゼンテーションの映像を見てもらい、どれだけ内容が理解できるかを確認しましょう。そのあと、プレゼンテーションの英語原稿をプリントにしたものを配布し、受講者を指名してその場で音読と訳読してもらいます。プリントには注釈をつけておきますので、予習は不要です。

〔第4回〕 プリント暗唱の後、英語の新聞の記事に挑戦してもらいます。今年のThe New York Timesの記事を1つプリントして前の時間に配布し、音読し和訳を発表する担当者を段落ごとに決めておきます。2回に分けて読んでいく予定です。

〔第5回〕 プリント暗唱の後、前回に引き続き、The New York Timesの記事を読んでいきます。

〔第6回〕 プリント暗唱の後、英語の雑誌の英文に挑戦してもらいます。今年のThe Economistから記事を1つプリントして前の時間に配布し、音読と和訳を発表する担当者を決めておきます。2回にわたって読んでいく予定です。

〔第7回〕 プリント暗唱の後、前回に引き続き、The Economistの記事を読んでいきます。

〔第8回〕 〔第2回〕と同じ形式で、別の内容の英語ニュースを取り上げます。

〔第9回〕 〔第3回〕と同じ形式で、別の内容のプレゼンテーションを扱います。

〔第10回〕 〔第6回〕と同じ形式で、The Economistから別の記事を取り上げます。2回にわたって読んでいく予定です。

〔第11回〕 前回の続きとなります。

〔第12回〕 筆記試験による総括を行います。

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

#### ◆成績評価方法

暗唱プリントの進捗状況(40点満点)、授業時の英文の読解力(10点満点)と最終日の試験結果(50点満点)に基づいて決定します。

### 科目 英語(リーディング) D 1単位

担当 文学部助教 加藤有佳織

英文読解力を充実させるために、速読練習とテキスト精読を行ないます。速読練習については予習不要ですが、各自単語や文法事項の復習をしてください。テキスト精読は現代短編小説数篇を教材とし、内容の要約や文法事項の確認をしながら精読力をみがきます。初回をのぞき該当箇所を予習の上、授業にご参加ください。

〔第1回〕 イントロダクション；速読#1；精読#1

〔第2回〕 速読#2；精読#2

〔第3回〕 速読#3；精読#3

〔第4回〕 速読#4；精読#4

〔第5回〕 速読#5；精読#5

〔第6回〕 速読#6；精読#6

〔第7回〕 速読#7；精読#7

〔第8回〕 速読#8；精読#8

〔第9回〕 速読#9；精読#9

〔第10回〕 速読#10；精読#10

〔第11回〕 速読#11；精読#11

〔第12回〕 まとめ・試験

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

英和辞書あるいは英英辞書を必ずお持ちください。

#### ◆成績評価方法

平常点(60%)・最終日試験(40%)による総合評価とします。

### 科目 英語(リーディング) E 1単位

担当 講師 有賀明子

英文ニュースの記事を読み、時事英語表現と読解のスキルを習得する。発音を確認後、単語(語義、慣用句の把握)、文法(構文の正しい理解)、文章の構成(論理、さらには内容に対する自分の考え)すべてに注意を払いながら本文を読む。毎授業時に小テストを実施し、既習部分の理解度を測る。

〔第1回〕 (日本の)与党陣営、参院選圧勝

〔第2回〕 IMF、世界成長予測を再引き下げ—英EU離脱が影

〔第3回〕 G7、成長のための努力約す 安倍首相世界的な経済危機を警告

〔第4回〕 オバマ大統領広島訪問、周到な外交努力の成果

〔第5回〕 訪日外国人急増

〔第6回〕 ブリュッセル震撼、空港と地下鉄で爆発

〔第7回〕 認知症男性の列車事故死、最高裁「家族に賠償責任なし」

〔第8回〕 (地震調査委)報告書：南海トラフ沿いで地震の危険増大

〔第9回〕 日本、貧困層子育て世帯問題、さらに深刻化

〔第10回〕 グーグル製人工知能、囲碁で韓国人プロ棋士に4-1で勝利

〔第11回〕 A・ロッド、日本のスター選手イチローの偉業を賞賛

〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・堀江洋文ほか編著『時事英語の総合演習—2017年度版—』(朝日出版社、2017年)

ISBN 978-4-255-15606-4

#### ◆成績評価方法

授業への出席と貢献度(30%)、試験(70%)によって評価する。

### 科目 英語(ライティング) 1 1単位

担当 講師 吉原学

センテンス・レベルのライティングのコースです。このコースには2つの目的があります。第1の目的は、英作文(センテンス・レベル)の練習を通して正確な文を書けるようになることです。きちんとした文を書けるようになれば、きちんとした英語を話せるようになります。第2の目的は、センテンス・レベルのライティングの練習を通して英語における情報の伝達の仕方(語順)、文法、そして語法(語の使い方)を習得することです。これらの知識なしでは正確な文を書くことはできません。

今回は、以下の5つの重要文法事項に焦点をあてて学習します。

〔第1回〕 オリエンテーション&「英語という言葉」とは?

〔第2回〕 時のコントロール(時制)①について

〔第3回〕 時のコントロール(時制)②について

〔第4回〕 時のコントロール(時制)③について

〔第5回〕 機能表現(助動詞)①について

〔第6回〕 機能表現(助動詞)②について

〔第7回〕 時のコントロール(時制)&機能表現(助動詞)の振り返り

〔第8回〕 後置修飾①について

〔第9回〕 後置修飾②について

〔第10回〕 比較構文

〔第11回〕 接続詞

〔第12回〕 総括/ファイナルテスト

授業はペアーもしくはグループを作って、受講生同士が意見交換をしながら力を付けていくようにします。みなさんが主役のコースです。楽しみながら英語力を伸ばしましょう!

#### ◆テキスト

・プリント教材

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

このコースは、もう一度文法を真剣に復習したいと

考えている人、もしくは英語の発想をもとにした正確な文を書きたいと思っている人にお勧めします。内容(学ぶ英語)は、大人が日常生活や業務を行なっていく上で役に立つものになっています。

いわずな書店が無料で提供している『【MEW Core 500】コア解説動画』の動画1~74までを見て、基本動詞、前置詞のコアを確認しておいてください。URL: [https://www.youtube.com/playlist?list=PLI9V6ssotJDXRKValYxHrW8G\\_2KcZ8Cup](https://www.youtube.com/playlist?list=PLI9V6ssotJDXRKValYxHrW8G_2KcZ8Cup)

#### ◆成績評価方法

成績は、次の基準でつけられます。出席率・授業参加・積極性(40%)、ファイナルテスト(60%)。

また、正当な理由のない欠席が4回以上になった場合または過度の遅刻がある場合、成績がつけられなくなります。また、5分以上の遅刻3回で1回の欠席となります。

### 科目 英語(ライティング) 2 1単位

担当 文学部教授 コミサロフ、アダム

The goal of this course is to develop participants' academic writing skills and also enjoy the process of writing. We will learn the basics of how to write an academic essay, while practicing writing at the levels of sentence, paragraph, and essay. Students will also engage in writing exercises of a non-academic nature that will help them to improve their general writing skills while discovering the joy of writing.

〔第1回〕 Course introduction

〔第2回〕 Effective paragraph writing (1)

〔第3回〕 Effective paragraph writing (2)

〔第4回〕 Developing an argumentative essay (1)

〔第5回〕 Developing an argumentative essay (2)

〔第6回〕 Writing effective introductions and conclusions

〔第7回〕 In-class essay test

〔第8回〕 Outlining: Effectively planning and executing your essay

〔第9回〕 Citations, references, and paraphrasing

〔第10回〕 Quality and types of proof

〔第11回〕 Unity of paragraph and essay content

〔第12回〕 Final essay test, course summary, and student consultations

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

Students are expected to attend class regularly, participate in all activities, and to complete all homework assignments. Students who can fulfill these expectations are encouraged to enroll for this course.

## ◆成績評価方法

Students' grades will be based on (1) participation in class work, (2) homework completion rates (homework is given weekly), (3) attendance, and (4) performances on essay tests.

**科目 英語 (ライティング) 3** 1単位

担当 経済学部准教授 志村明彦

高校までのライティングでは、文レベルの作文、特に和文英訳を学ばれた方が多いと思います。しかし、ライティングとは本来、書き言葉を使ってのコミュニケーションであるということを考えれば、複数の文から構成されるパラグラフを書く必要がでてきます。また、パラグラフについて学び練習することは、リーディング・スピーキング・リスニングの実践にも役立ちます。そこで、本講座ではパラグラフ・ライティングを学びます。最初に英語のパラグラフの構造を学び、次にパラグラフのタイプ別にライティングの練習をします。時間があれば、複数のパラグラフから構成される簡単なエッセイの書き方についても学びます。

〔第1回〕パラグラフライティング入門

〔第2回〕教科書第1章

〔第3回〕教科書第2・3章

〔第4回〕教科書第4章

〔第5回〕Reason Paragraph入門

〔第6回〕Reason Paragraphを書く

〔第7回〕教科書第5章

Comparison or Contrast Paragraph  
入門〔第8回〕Comparison or Contrast Paragraph  
を書く

〔第9回〕Problem and Solution Paragraph入門

〔第10回〕Problem and Solution Paragraphを書  
く

〔第11回〕教科書第6章

〔第12回〕総括・試験

## ◆テキスト

・津田塾大学英文学科編『パラグラフから始める英文ライティング入門〔改訂版〕』(研究社、2001年)  
ISBN 978-4-327-42157-1

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

本講座では大量にライティングをすることになりますので、頑張ってください。また、講義ではできるだけ英語を使いたいと思います。よって予習が非常に重要になってきます。最初の授業までに、テキストの第1章(余裕のあるかたは1～3章)の本文(のみ)を読んできてください。なお、授業では教科書の本文を音読してもらうこともあります。テキストの音読の練習もお忘れなく。

授業では辞書を使いますので、例文の豊富な辞書を持ってきてください。また、課題はワープロで作成したものを提出してもらいますので、事前にPCやワープロソフト等の準備とその使い方について学んでください。

## ◆成績評価方法

出席：10%

参加：10%

課題：60%

最終日試験：20%

**科目 英語 (ライティング) 4** 1単位

担当 講師 由井 ロバート

英語で理論的な文を書き、自分の主張や説明などを読み手に伝える事を目的としています。授業では各自英文を作成し、作文の構築法に従って説得力のある明確な文を書く練習をします。最終的にある程度の長文を書く事を目指します。明確さや理論性を重視する英文においてはスキルやルールも重要です。文を書く事が得意でない人も、他の受講生を気にせずに丁寧に自分なりのペースで文を書いてもらいます。書く力を身につけるには実際に多くの文を書く事が一番良い方法で、多く書く事により作文力が上がります。出された課題に対し下書きをし、それを講師が添削し、仕上げで行きます。良い文を書くのが目的ですので、繰り返し書く事により書く力が養われていきます。随時新しい課題がだされませんが、この授業では課題を幾つ終わらせるかではなく、書いた内容を重視しますので、この課題に対し丁寧に取り組んで欲しいと思います。授業の内容はクラスの人数、課題の進み具合により、内容が前後する場合があります。また、課題を早い段階で終わらせた場合、新たに課題が追加されます。課題をこなす早さは人により異なりますが、他の人を気にせずに自分のペースで終わらせる事を心がけましょう。

〔第1回〕自己紹介：各自英語で自己紹介の文を書いてもらいます。

〔第2回〕語彙チェック：英文を書く場合ある程度の語彙が必要に成ります。ここでは辞書を使わないで語彙チェック課題が出ます。

〔第3回〕人物を描写する：英語で人物の特徴、外見などを説明します。

〔第4回〕風景描写をする：景色などを英語でいかに正確に表せるか挑戦します。

〔第5回〕道案内の文を書く：道順を説明するのは何語でも難しいですが、この回は英語で道順の説明を書きます。

〔第6回〕日本昔話を書く：既にある昔話を英語で書きます。どの昔話を選ぶかは個人の自由です。

〔第7回〕詩を書く：英語で詩を書くことに挑戦してもらいます。どのような詩を書くかは授業で説明をします

〔第8回〕説明文を書く：英語で何かの説明文を書いてもらいます。各自得意な物を選んで書いてもらいます。

〔第9回〕故事成語：故事成語の由来と使い方を英語で説明してもらいます。何を選んで説明するかは自由です。

〔第10回〕比較／対比：英語で何かを比較／対比してもらい、説明文を書いてもらいます。

〔第11回〕最終課題：最終課題(長文)は前の授業で発表します。最終課題は下書きをし、添削の後に提出する為に清書してもらいます。

〔第12回〕最終課題：最終課題の添削をし、清書しての提出になります。提出する場合は全員同じ用紙でしてもらいます。

## ◆テキスト

・指定しない。

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

辞書(電子辞書、iPhone、iPadなども可)を必ず持参する事。ただし、コンピューターを使っての作文は禁止です。この授業は全て手書きになります。これはコンピューターを使った場合、スペルチェックなどが入り、書く練習にならないからです。その他の必要な事柄については初回の授業で説明をします。(例：作文を書く場合は提出する最終課題以外は全てエンピツ、フリクションペンなどの消せる物を使う。)

## ◆成績評価方法

この授業の性質上、毎回出席を確認し、課題を一つ一つ終わらせていきます。ただし、最初に述べたように、終わらせた課題の数ではなく、内容と表現力を重視して評価します。全ての課題が終了していなくても大丈夫です。ただし最終課題は全員提出になります。

最終課題は評価の30%、他の課題は総合的に50%、出席は20%になります。ただし、正当な理由(病気など)がない授業の欠席が3回以上ある場合は自動的にDになりますので注意してください。

**科目 英語 (ライティング) 5** 1単位

担当 講師 八木橋宏勇

本講義は「英語リーディングを通して“mental corpus”を豊かにさせながら英語ライティングに活かす」というスタイルで授業を展開します。主な目的は、1) 英語の基礎力をじっくり丁寧に養いながら、主にセンテンスレベルの英文を正確に書けるようになること、2) 英語という言葉の好まれる話題展開に習熟しできるだけ「母語が透けて見えない」談話を構成できるようになること、です。語を文法に従って並べるという単純な作業ではなく、伝えたい内容をイメージの喚起まで注意を払って「自然な英語」となるよう演習します。いわゆる「英文法」にも正面から向き合って詳細に説明しますが、単に公式のようなものを丸暗記するのではなく、なぜこの文法が存在するのか、どのような意味合いを伝える役目を担っているのか、という視点から実践的な演習をしていきます。また、語やイディオム表現のニュアンスにも細かく意識を向け、英語力の底上げを図ります。

授業は、担当者による講義と受講者が行う演習から成り、クラス全体でライティング力を上げていけるよう工夫します。詳しくは初回の授業で説明をします。

〔第1回〕〈メンタルコーパス〉と〈ライティング〉

〔第2回〕〈冠詞〉〈時制〉〈好まれる言い回し〉

〔第3回〕文法研究編1ー〈時制〉

〔第4回〕文法研究編2ー〈未来表現・受動態〉

〔第5回〕文法研究編3ー〈仮定法〉

〔第6回〕文法研究編4ー〈関係詞〉

〔第7回〕文法研究編5ー〈比較〉

〔第8回〕メンタルコーパスと談話構築演習1

〔第9回〕メンタルコーパスと談話構築演習2

〔第10回〕メンタルコーパスと談話構築演習3

〔第11回〕メンタルコーパスと談話構築演習4

〔第12回〕メンタルコーパスと談話構築演習5

## ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

現在の英語力は一切問いません。予習は必要ありませんが、復習と「学習したことを実際に使ってみる」ことは必ず行ってください。

## ◆成績評価方法

語学は継続的な学習が必須ですから、出席を重視します。課題は最終授業日に提出していただく予定です。詳細は授業内でお知らせします。

出席 (60%)、課題 (40%)

**科目 英語 (ライティング) 6** 1単位

担当 講師 藤井 誠

本講義では、中学高校で学習してきた英語の基礎を復習し、日常生活で使用される英語らしい英語表現に重点を置き、英語のコミュニケーション能力の向上を目指す。同時に英語のパラグラフの構造についても学習する。

〔第1回〕イントロダクション

〔第2回〕英文ライティングの基本

〔第3回〕英語の基本文型について

〔第4回〕センテンスをつくる

〔第5回〕英語のパラグラフとは何か

〔第6回〕主題文について

〔第7回〕メインアイデアについて

〔第8回〕支持文について

〔第9回〕ボディについて

〔第10回〕文の首尾一貫性について

〔第11回〕理由を表すパラグラフについて

〔第12回〕総括

## ◆テキスト

・友繁義典『English Composition Based on the Comparison Between English and Japanese』(南雲堂、2017年)  
ISBN 978-4-523-17839-2

・仲谷都、吉原学、Ruth Fallon『Smart Writing はじめてのパラグラフ・ライティング』(成美堂、2017年)

ISBN 978-4-7919-6032-3

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回必ず英和辞典・和英辞典を持参すること。

## ◆成績評価方法

出席 (10%)

授業参加 (10%)

課題 (20%)

試験 (60%)

## ドイツ語

<b>科目</b> <b>ドイツ語 (初級前期) I—A</b>	1単位
<b>担当</b> 文学部教授 中山 豊	

初級前期は、ABC、発音の仕方から始めて、ドイツ語文法の基本ルールを学習し、ドイツ語を読み、書き、聞き、話すことのしっかりとした基礎をつくる。教科書の約半分、形容詞のところまで学習する。

- [第1回] アルファベット、第1課：発音
- [第2回] 第2課：動詞の現在人称変化
- [第3回] 第3課：冠詞と名詞(単数)
- [第4回] 第4課：冠詞類
- [第5回] 第5課：前置詞
- [第6回] 第6課：名詞の複数形
- [第7回] 第7課：動詞の人称変化(特殊)、命令形
- [第8回] 第8課(1)：話法の助動詞
- [第9回] 第8課(2)：未来形
- [第10回] 第9課：定形後置
- [第11回] 第10課：zu不定句
- [第12回] まとめと試験

- ◆ **テキスト**
  - ・大谷弘道・井戸田総一郎・岩下真好・大畑純一・識名章喜編『新編初歩ドイツ語』(慶應義塾大学出版会、1995年)  
ISBN 978-4-7664-0260-5
- ◆ **受講上の要望または受講上の前提条件**
  - この段階は、今後のドイツ語のあらゆる学習の基礎となるものなので、きちんと身につけてほしい。
- ◆ **成績評価方法**
  - スクーリング最終日の試験によって評価する。

<b>科目</b> <b>ドイツ語 (初級前期) I—B</b>	1単位
<b>担当</b> 経済学部教授 七字 眞明	

ドイツ語(初級前期) I—Aと同じ。

<b>科目</b> <b>ドイツ語 (初級後期) II—A</b>	1単位
<b>担当</b> 講師 小笠原 藤子	

初級後期は、初級前期に引き続いてドイツ語の文法の基礎を学ぶ。教科書の後半、形容詞以後を学習する。

- [第1回] 初級前期の総ざらい
- [第2回] 第11課：形容詞の変化
- [第3回] 第12課：分離動詞
- [第4回] 第13課：再帰動詞
- [第5回] 第14課：動詞の3要形と過去
- [第6回] 第15課：現在完了
- [第7回] 第16課：受動形
- [第8回] 第17課：関係代名詞
- [第9回] 第18課：接続法の形態
- [第10回] 第19課：接続法の用法(1) —間接話法
- [第11回] 第20課：接続法の用法(2) —非現実話法
- [第12回] まとめと試験

テキスト、注意事項等は、ドイツ語(初級前期) I—A、Bと同じ。

<b>科目</b> <b>ドイツ語 (中級) III—A</b>	1単位
<b>担当</b> 講師 中川 純子	

この授業ではドイツ語の文法を確認しながら読解力を高めるとともに、ドイツ語のテキストの音読を行います。授業では、グリム童話からDie Sterntaler(『星の銀貨』)をとりあげ、和訳、テキスト構造の検討を行いながら、音読にも取り組みます。ドイツ語の発音の基本的な仕組みや、いわゆる発音が難しいと言われるドイツ語特有の音をうまく出せるように練習するほか、ポーズ、イントネーション、アクセント、声の大小や読む速度などがどのような役割を果たすかを学びます。童話は子供に語り聞かせるように作られているので、本来、音読練習にとっても適した素材と言えます。授業では朗読の録音を行い、聞き手を意識した効果的な読み方について一緒に考えていきたいと思ひます。最終回には、授業で学んだ事を生かし、それぞれが朗読の発表をする機会を持ちます。

- [第1回] イントロダクション
- [第2回] 発音1) 発音の基本ルール・母音/読解1)
- [第3回] 発音2) 発音の基本ルール・子音/読解2)
- [第4回] 発音3) 文アクセント/読解3)
- [第5回] 発音4) 音節とリズム/読解4)
- [第6回] 発音5) アクセントグループ/読解5)
- [第7回] 中間発表
- [第8回] 発音6) イントネーション/読解6)
- [第9回] 発音7) 声の大小、読む速度/読解7)
- [第10回] 発音8) ポーズ/読解8)
- [第11回] まとめと練習
- [第12回] 発表

- ◆ **テキスト**
  - ・プリントを適宜配布
- ◆ **受講上の要望または受講上の前提条件**
  - 独和辞典は授業に毎回持参してください。
- ◆ **成績評価方法**
  - 毎回の参加時の平常点と、最終発表の朗読を総合的に判断します。授業への積極的な参加を希望します。

<b>科目</b> <b>ドイツ語 (上級) IV—A</b>	1単位
<b>担当</b> 法学部教授 三瓶 慎一	

受講者のみなさんがあらかじめインターネットで探してきたドイツ語の文字テキストを読んだり、音声テキストを聴いたりします。ドイツ語圏のニュースソースに自らアクセスして、1次情報を入手できるようにすることが目標です。

したがって、この授業を受講するには、随時コンピュータを使ってインターネットにアクセスしてネットサーフィンをしたり、電子メールであらかじめファイルを送信したりといった、基本的な操作ができるこ

と、およびそのための環境にあることが条件です。(授業に関する連絡はすべて電子メールで行います。)

コンピュータが自宅にない場合は多少ハンディがありますが、大学のコンピュータを有料で利用することもできますので、個人アカウントの取得など、必要な手続きをして下さい。

受講に際しての問合せや質問はES2017@sambe.jp宛にメールを送って下さればお答えします。

また受講が決定した段階で、上記のアドレスにメールで連絡して下さい。授業用のメイリングリストを作成します。

- [第1回] テキスト(その1)の読解・聴解
- [第2回] テキスト(その2)の読解・聴解
- [第3回] テキスト(その3)の読解・聴解
- [第4回] テキスト(その4)の読解・聴解
- [第5回] テキスト(その5)の読解・聴解
- [第6回] テキスト(その6)の読解・聴解
- [第7回] テキスト(その7)の読解・聴解
- [第8回] テキスト(その8)の読解・聴解
- [第9回] テキスト(その9)の読解・聴解
- [第10回] テキスト(その10)の読解・聴解

## フランス語

<b>科目</b> <b>フランス語 (初級前期) I—A</b>	1単位
<b>フランス語 (初級前期) I—B</b>	1単位
<b>担当</b> 商学部専任講師 川村文重 講師 アブリアル、ジャン・ピエール	

フランス語の初級文法の授業です。「綴りと発音」から始めて「目的語人称代名詞の位置」までを学習します。教科書は0課から10課までを学習します。毎回教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で授業を進めていきます。

- [第1回] Leçon 0 綴りと発音
- [第2回] Leçon 1 「名詞の性と数」・「冠詞」・「提示表現」
- [第3回] Leçon 2 「主語人称代名詞」・「動詞êtreとavoirの直接法現在形」・「疑問文に対する答え方」
- [第4回] Leçon 3 「-er型規則動詞と-ir型規則動詞の直説法現在形」・「形容詞」
- [第5回] Leçon 4 「指示形容詞」・「所有形容詞」・「強勢人称代名詞」
- [第6回] Leçon 5 「否定文・否定のde」・「疑問文」・「否定疑問文に対する答え方」
- [第7回] Leçon 6 「不規則動詞allerとvenirの直接法現在形」・「近接未来と近接過去」・「前置詞àとdeと定冠詞の縮約」・「強調構文」
- [第8回] Leçon 7 「疑問形容詞」・「疑問副詞」・「疑問代名詞(1) —性・数変化しないもの—」
- [第9回] Leçon 8 「命令法」・「非人称構文」・「疑問代名詞(2) —性・数変化するもの—」
- [第10回] Leçon 9 「比較級」・「最上級」・「特殊な

[第11回] テキスト(その11)の読解・聴解

[第12回] テキスト(その12)の読解・聴解

- ◆ **テキスト**
  - ・指定しない。
  - ・インターネット上で受講者自らが探してきた、各自の関心に応じた文字・音声テキスト。
- ◆ **参考文献**
  - ・適宜紹介します。
- ◆ **受講上の要望または受講上の前提条件**
  - ・電子メールアドレス(携帯アドレスは不可)を持っていること。
  - ・コンピュータの基本的な操作ができること。
  - ・毎回の授業以前にインターネットサーフィンができること。
  - ・電子メールを常時チェックする習慣があること。
- ◆ **成績評価方法**
  - 平常点を基本とし、場合によってはレポートの提出を求めることも考えていますが、そもそも授業方法が少々独特ですから、成績評価の方法も異色のものを考えようと思っています。

優等比較級・優等最上級

[第11回] Leçon 10 「人称代名詞」・「目的語人称代名詞の位置」

[第12回] 総括・最終試験

- ◆ **テキスト**
  - ・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法(CD付)』(朝日出版社、2007年)  
ISBN 978-4-255-35184-1
- ◆ **受講上の要望または受講上の前提条件**
  - フランス語を初めて学ぶ学生を対象とします。1回の授業で教科書の1課を学習するという比較的早いペースで進みますので、授業前の予習と授業後の復習は不可欠です。予習に関しては、授業前に授業で学ぶ課の文法説明を一読して理解するよう努めるようにしてください。復習に関しては、教科書の練習問題はもちろん、付録の文法問題も必ず解き、授業で学習した課の内容を確実にマスターするよう心がけてください。なお、教科書にはCDも付いていますので、フランス語の発音の学習に大いに役立ててください。
  - 一般に、語学の学習にとって反復練習は欠かせません。動詞の活用を含めた文法事項は、何度も音読して暗記し、また忘れたら覚え直すという作業を繰り返し、できるだけ多くの文法練習の問題を解くようにしてください。この作業を繰り返すうちに確実にフランス語の実力がつくようになるでしょう。
- ◆ **成績評価方法**
  - 平常点および最終試験による。

**科目** フランス語（初級後期）II—A 1単位**担当** 講師 綾部麻美

フランス語初級前期にひきつづき、「過去分詞」から「接続法」までを学習します。教科書は11課から20課までを学習します。1回の授業で教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で進めていきます。なお初回の授業は前期に学習した文法の復習に充てます。

- 〔第1回〕 Leçon 6からLeçon 10までの文法事項の復習  
 〔第2回〕 Leçon 11「過去分詞」・「直説法複合過去」  
 〔第3回〕 Leçon 12「代名動詞」  
 〔第4回〕 Leçon 13「中性代名詞 en, y, le」  
 〔第5回〕 Leçon 14「関係代名詞」  
 〔第6回〕 Leçon 15「受動態」・「指示代名詞」・「所有代名詞」  
 〔第7回〕 Leçon 16「直説法半過去形」・「直説法大過去形」  
 〔第8回〕 Leçon 17「直説法単純未来形」・「直説法前未来形」  
 〔第9回〕 Leçon 18「現在分詞」・「ジェロンディフ」  
 〔第10回〕 Leçon 19「条件法現在形・過去形」  
 〔第11回〕 Leçon 20「接続法現在形・過去形」  
 〔第12回〕 総括・最終試験

## ◆テキスト

・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）ISBN 978-4-255-35184-1

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語初級前期を終えた学生、またはそれと同等程度の知識を持つ学生を対象とします。この科目の受講希望者は、第1回目の授業の前までに『アトリエ・フランセ』の特に6課から10課までを自主学習しておいてください。第1回目の授業ではこれらの課の簡単な復習をします。

テキスト、注意事項などはフランス語（初級前期）I—A、Bと同じです。

## ◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

**科目** フランス語（中級）III—A 1単位**担当** 講師 設楽聡子

初級フランス語を一通り終えた学習者が、文法を復習しながら、ある程度長い文章を辞書を使って読めるようになることを目的とする授業です。基礎的なフランス語力の習得に加え、時事フランス語を通して現代のフランスや日本の文化・社会について考察します。テキストとして使用する『フランスを読み解く鍵』は、フランスや日本の最新情報を投影した興味深い内容です。授業は毎回予習を前提とし、訳読の他に、文法や語彙に関する確認と補足説明を行います。それぞれの課には練習問題がついているので、初級文法のよい復習にもなるでしょう。この講義を通して、フランスと

日本の現代について新しい発見があることを期待しています。

- 〔第1回〕 イントロダクション／第1課「星の王子さま」  
 〔第2回〕 第2課「笑う牛—フランス最初のオリジナルチーズ・ブランド」  
 〔第3回〕 第3課「フランス人の朝食、コーヒーとクロワッサン」  
 〔第4回〕 第4課「ポール・アンブローワ—フランス版職業安定所」  
 〔第5回〕 第5課「ランド・ゼコルーエリート—社会フランスと教育システム」  
 〔第6回〕 第6課「犬と猫—ペットをめぐる諸事情」  
 〔第7回〕 第7課「あいさつ—フランス流あいさつのABC」  
 〔第8回〕 第8課「雄鶏—フランスの象徴」  
 〔第9回〕 第9課「ココ・シャネル—モードの革新者」  
 〔第10回〕 第10課「現在を照射する68年5月」  
 〔第11回〕 第11課「セルジュ・ゲンズブール—既成の概念・社会へのNon」  
 〔第12回〕 総括

## ◆テキスト

・MEYER『フランスを読み解く鍵（Cles pour la France）第1巻』（アシェット・ジャポン、2015年）ISBN 978-4-90797-002-4

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

初級フランス語（初級前期・後期）を一通り受講していること。授業初回時までに、教科書の第1課の予習を済ませておいて下さい。

## ◆成績評価方法

平常点、および最終試験を総合して評価します。

**科目** フランス語（上級）IV-A 1単位**担当** 経済学部専任講師 山本武男

- 〔第1回〕 『ロダンの言葉』序、第一章「芸術に於ける写真主義」I（p.i-2）  
 〔第2回〕 『ロダンの言葉』第一章II 第二章「芸術家にとって自然はすべて美しい」I（p.2-6）  
 〔第3回〕 『ロダンの言葉』第二章「芸術家にとって自然はすべて美しい」II（p.6-12）  
 〔第4回〕 『ロダンの言葉』第二章III 第三章「芸術に於ける動き」I（p.12-17）  
 〔第5回〕 『ロダンの言葉』第三章「芸術に於ける動き」II（p.17-21）  
 〔第6回〕 『ロダンの言葉』第三章III 第四章「芸術に於ける神秘の領域」I（p.21-25）  
 〔第7回〕 『ロダンの言葉』第四章II 第五章「フェイディアスとミケランジェロ」I（p.25-31）  
 〔第8回〕 『ロダンの言葉』第五章「フェイディアスとミケランジェロ」II（p.31-35）  
 〔第9回〕 『ロダンの言葉』第五章III 第六章「ルーヴルにて」I（p.35-39）  
 〔第10回〕 『ロダンの言葉』第六章「ルーヴルにて」II（p.40-45）

〔第11回〕 『ロダンの言葉』第六章「ルーヴルにて」II（p.45-50）

〔第12回〕 総括・試験

## ◆テキスト

・オーギュスト・ロダン『芸術について』（駿河台出版社、1965年）ISBN 978-4-411-01658-4

## ◆参考文献

・朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』（白水社、2002年）

## ◆受講上の要望または受講上の前提条件

一通り初級文法をマスターし、中・上級レベルの読み物を読んでみたいという意欲のある方向けの講座です。毎時間、予習が必要です。

## ◆成績評価方法

最終日の試験による。

# 文学部専門教育科目

## 第1類に属する科目

<b>科目</b> 哲学（専門）	2単位
<b>担当</b> 講師 田子山和歌子 / 講師 小草 泰	

〔近現代における心の哲学と認識論〕

近代および現代の哲学は、心の主たる働きである〈知る〉働きに様々な角度から光を当て、認識構造や知の正当化の問題にいたるまで、多様なアプローチを試みてきました。本講義では、この問題を、近代（田子山担当）と現代（小草担当）それぞれから考えていきます。

近代（田子山）においては、前年度に引き続き、近代の心の哲学の主要概念である〈観念〉について見ていきます。〈観念〉は、もともと古代ギリシャのアイデアに由来するものですが、近代では、感覚知覚、想像力、記憶、高次の推論能力を含む、広い意味での、心の「知る働き」を指すようになりました。近代の心の哲学は、この、観念という枠組みなしには語りえないといってもいいほどです。前年度においては、デカルト、マルブランシュ、ライプニッツ、ロックといった、近代の思想家の多様な観念説を、〈キリスト教思想〉の文脈から見てきましたが、加えて今年度は西洋思想の伝統的枠組みをなす〈懐疑主義〉からも検討していきます。

現代を扱う後半部（小草）では、「知覚は世界に関する信念を（どのように）正当化するのか」という問いに焦点を当てます。特に、認識論的基礎づけ主義（＝諸々の信念は、知覚がもたらす基礎的な——それ以上他の信念によって正当化される必要のない——信念によって正当化されるとする立場）をめぐる論争を中心に、現代認識論の基本的なトピックを学びます。

- 〔第1回〕 導入：人間はすべてを知りうるか。キリスト教思想における「知」の多層性
- 〔第2回〕 キリスト教思想における知の変遷、宗教改革と「観念」説
- 〔第3回〕 懐疑主義と近代の観念論1——懐疑主義とは何か。デカルトの観念論
- 〔第4回〕 懐疑主義と近代の観念論2——デカルトの観念論に対する同時代の大陸合理論の反応—マルブランシュ、アルノー、ライプニッツ
- 〔第5回〕 懐疑主義と近代の観念論3——観念の多様性—イギリス経験論の知の方法、ベーコン、ロック、ニュートン
- 〔第6回〕 懐疑主義と近代の観念論4——まとめ
- 〔第7回〕 現代の認識論への導入、古典的基礎づけ主義とその問題点
- 〔第8回〕 整合説とその問題点
- 〔第9回〕 新たな基礎づけ主義①——外在主義的な

- 基礎づけ主義
- 〔第10回〕 新たな基礎づけ主義②——内在主義的な基礎づけ主義
- 〔第11回〕 新たな基礎づけ主義②の続き
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 特になし
- ◆成績評価方法
- 最終日の試験による。

<b>科目</b> 倫理学特殊	2単位
<b>担当</b> 文学部教授 柘植尚則	

近代のイギリスでは、モラリスト（道徳思想家）たちが共通の主題について議論を交わしています。なかでも重要なのは「人間の本性」「感情と理性」「幸福と理想」という主題です。人間は生まれつき利己的であるのか、それとも、利他的で社会的であるのか。善と悪、正と不正、徳と悪徳は、感情や感覚によって知られるのか、それとも、理性や知性によって知られるのか。人間の目的は個人や社会の幸福にあるのか、それとも、幸福を超えた理想にあるのか。こうした問題をめぐって、モラリストたちは長年にわたって論争を行っています。この講義では、「人間の本性」「感情と理性」「幸福と理想」という共通の主題に関わって、近代のイギリスを代表するモラリストたちを取り上げ、その基本的な考えを紹介します。

- 〔第1回〕 トマス・ホップズ
- 〔第2回〕 第三代シャフツベリ伯爵
- 〔第3回〕 バーナード・マンデヴィル
- 〔第4回〕 ジョゼフ・バトラー
- 〔第5回〕 フランシス・ハチスン
- 〔第6回〕 デイヴィッド・ヒューム
- 〔第7回〕 アダム・スミス
- 〔第8回〕 トマス・リード
- 〔第9回〕 ジェレミー・ベンサム
- 〔第10回〕 ジョン・ステュアート・ミル
- 〔第11回〕 トマス・ヒル・グリーン
- 〔第12回〕 まとめ

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆成績評価方法
- レポートによる（最終日に提出）。

<b>科目</b> 芸術学	2単位
<b>担当</b> 講師 大木麻利子	

絵画における「筆触（色斑）」の問題を取り上げます。西洋美術は古代以来、「自然模倣」を目指し、それに最も優れていたとされる古代ギリシャ・ローマ人の作品やそれに匹敵する作品が手本とされ、美術教育においても、そうした作品を「コピー」する訓練が重要な位置を占めていました。こうした古典的な絵画観では、絵画の筆触や彫刻の鑿の跡のような制作の痕跡が「目に見える」ことは欠点であり、「仕上げ」の不足した作品、「習作」にすぎないと非難されました。しかし19世紀後半には、印象派やその先駆者とされる画家たち（ドラクロワ、クールベ、マネ）の絵に見られるように、目に見える筆触、「色斑性」は目立った現象として現れてきます。「フィニ／スケッチ論争」がアカデミーの規範を揺るがすのもこの時代のことです。しかし同様の論争は時代をはるかに遡ります。「色彩画家」と「デッサン画家」という伝統的な区別があり、その優劣をめぐる論争の歴史があるからです。授業では「アルプスの北と南」の「異文化接触」にも触れつつ、「色彩画家の系譜」を追いながら、可視的な筆触（色斑）が絵画表現の本質的な手段として探究される、モダンアート出現前夜（新印象派・ポスト印象派）までを扱います。

- 〔第1回〕 導入 色彩画家とは
- 〔第2回〕 色彩とデッサン——「画家の採点表」
- 〔第3回〕 創造的コピー（1）
- 〔第4回〕 主題のヒエラルキーと絵画ジャンル
- 〔第5回〕 19世紀における色彩とデッサン（1）
- 〔第6回〕 19世紀における色彩とデッサン（2）
- 〔第7回〕 創造的コピー（2）
- 〔第8回〕 筆触あるいは色斑（1）
- 〔第9回〕 筆触あるいは色斑（2）
- 〔第10回〕 色彩の自律性と装飾美術
- 〔第11回〕 「点描」対「平塗り」
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布します。
- ◆参考文献
- ・適宜授業で提示します。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 予備知識は不要です。上記の講義内容にある「」内の語など、基本用語は作品や資料を使って解説します。ただし、用語の理解と定着を目的にした簡単なクイズを毎回実施します。
- ◆成績評価方法
- 最終日の試験と、クイズ（出欠を含む）へのリアクションペーパーを総合して判断します。試験は記述式ですが、問題は前もって伝えます。

<b>科目</b> 西洋美術史	2単位
<b>担当</b> 講師 大谷公美	

キリスト教を主題とした美術作品は、西洋美術の展覧会や欧米の美術館で目にする特別なものではなく、

私たちの日常生活にとけ込んだイメージとしてごく身近に存在しています。本講義では、古代から近代までのキリスト教美術を図像学的観点から読み解くことに加え、歴史や文化といった広い視点から考察することによって、ひとつの作品が描かれた時代の信仰のあり方と信徒の日常生活にまで思いを巡らせます。

- 〔第1回〕 イントロダクション—キリスト教美術とは—
- 〔第2回〕 キリスト教美術の始まり
- 〔第3回〕 旧約聖書1「創世記」
- 〔第4回〕 旧約聖書2「出エジプト記」
- 〔第5回〕 旧約聖書3「旧約聖書統編」
- 〔第6回〕 スクロヴェーニ礼拝堂「マリア伝」
- 〔第7回〕 スクロヴェーニ礼拝堂「キリスト伝」
- 〔第8回〕 キリスト伝1「公生涯」
- 〔第9回〕 キリスト伝2「受難伝」
- 〔第10回〕 マリア伝
- 〔第11回〕 説話画と礼拝像
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- ・キリスト教に関する視覚芸術を対象としますが、あくまで美術史的観点からの講義となります。
  - ・美術史、キリスト教とも知識がなくても理解できるレベルを想定しています。
  - ・できるだけ美術館を訪問し、作品を実際に鑑賞する機会を設けることが望まれます。

- ◆成績評価方法
- 出席状況、授業内レポート、試験により総合的に評価。

<b>科目</b> 音楽史	2単位
<b>担当</b> 講師 加藤浩子	

オペラ入門とオペラの歴史

「オペラ」をテーマとする。前半6回は「オペラ入門」として、「オペラとは何か」について概観し、オペラのさまざまな側面を紹介する。後半6回は、16世紀末から20世紀初頭におけるオペラの歴史をたどる。

主な内容は以下の通り。

- 前半：オペラ入門
- オペラとは何か、オペラの特徴、オペラの楽しみ方
- 後半：オペラの歴史
- 16世紀末に誕生して以来、バロック、古典派、ロマン派、そして20世紀初頭に至るオペラの歴史をたどる。

- ◆テキスト
- ・加藤浩子『ようこそオペラ!』（春秋社、2011年） ISBN 978-4-393-93557-6
- ◆参考文献
- ・講義中に指示する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件

音楽的な知識はとくに必要ないが、映像を使用するため、講義中の私語、飲食などは控えること。またやむを得ず遅れた場合の入室はくれぐれも静かに行って

ほしい。

#### ◆成績評価方法

原則としてレポート2回。大きな試験は行わないが、小テストは行う可能性がある。他に、平常点として、講義や観劇などの感想文の提出を求められます。

<b>科目</b> <b>社会心理学（専門）</b>	2単位
<b>担当</b> 講師 村山陽	

本授業では、社会心理学の基礎的知識を学ぶとともに、それを高齢社会の社会問題の解明に応用することを目指します。社会心理学とは、「心と社会との関係」を扱う学問です。研究対象は、個人、対人関係、集団・組織、社会全体と幅広く、様々な学問領域との相互連携が展開されております。そのため、高齢社会が抱える諸問題（高齢者への偏見、世代間ギャップ、高齢者介護など）の解決に向けて、社会心理学の知識が活用されることが大いに期待されます。

- 〔第1回〕 社会心理学とは（1）社会心理学の成立
- 〔第2回〕 社会心理学とは（2）社会心理学の研究手法
- 〔第3回〕 自己認知：自分を知る
- 〔第4回〕 対人認知：人を理解する
- 〔第5回〕 社会的認知：社会を理解する
- 〔第6回〕 態度変化：人の気持ちを変える
- 〔第7回〕 攻撃と援助
- 〔第8回〕 社会的ジレンマ
- 〔第9回〕 高齢社会の社会心理学（1）高齢者への偏見
- 〔第10回〕 高齢社会の社会心理学（2）高齢者サポート
- 〔第11回〕 高齢社会の社会心理学（3）世代間交流
- 〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

- ・山岸俊男編『社会心理学キーワード』（有斐閣、2001年）ISBN 978-4-6410-5872-9
- ・その他にプリントを適時配布する。

#### ◆参考文献

- ・山田一成他『よくわかる社会心理学』（ミネルヴァ書房、2007年）
- ・加藤潤三他『コミュニティの社会心理学』（ナカニシヤ出版、2013年）
- ・我妻洋『社会心理学入門 上・下』（講談社、1987年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講前に専門的知識は必要ありませんが、授業中に紹介される参考文献をできるだけ読んでもらいたいと思います。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験、出席状況、受講態度により評価します。

<b>科目</b> <b>心理学（専門）</b>	2単位
<b>担当</b> 文学部教授 山本淳一	

#### 〔授業の概要〕

本講義では、まず、心理学の全体の中で、学習理論、行動理論、発達理論に焦点を当て、最新のトピックスを学ぶ。次に、それらの理論の発展として、応用行動分析学（applied behavior analysis）の体系と実践例を通じて、現実には様々な環境の中で、心理学をどのように活用していくかを習得する。

- 〔第1回〕 イントロダクション（心理学入門）
- 〔第2回〕 学習理論・発達理論
- 〔第3回〕 行動理論
- 〔第4回〕 応用行動分析学入門（1）
- 〔第5回〕 応用行動分析学入門（2）
- 〔第6回〕 早期発達支援での基礎と応用（1）
- 〔第7回〕 早期発達支援での基礎と応用（2）
- 〔第8回〕 学校教育での基礎と応用（1）
- 〔第9回〕 学校教育での基礎と応用（2）
- 〔第10回〕 心理臨床での基礎と応用
- 〔第11回〕 リハビリテーションでの基礎と応用
- 〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

- ・日本行動分析学会（編）山本淳一・武藤崇・鎌倉やよい（責任編集）『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版、2015年）
- ・山本淳一・池田聡子（著）『応用行動分析学で特別支援教育が変わる』（図書文化社、2005年）

#### ◆参考文献

- ・講義期間中に提示します。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキストを読んであることを前提に講義を進めますので、必ず、あらかじめ読んでから受講して下さい。

#### ◆成績評価方法

- （1）最終日の試験の成績
- （2）授業時間内レポート
- （3）授業時間外レポート

<b>科目</b> <b>教育心理学概論</b>	2単位
<b>担当</b> 講師 佐々木掌子	

「教育」にまつわる心理的・行動的メカニズムについて理解し、また批判的に検討できるように、講義のみならず適宜ディスカッションを入れた授業を行います。学習に関する教育心理学、学校に関する教育心理学、そしてジェンダーとセクシュアリティに関する教育心理学について触れます。

- 〔第1回〕 教育心理学とは
- 〔第2回〕 学習と教育①知識獲得と思考
- 〔第3回〕 学習と教育②学習と個人差
- 〔第4回〕 学習と教育③動機づけ
- 〔第5回〕 学習と教育④学習評価
- 〔第6回〕 学校と教育①児童期の心理発達
- 〔第7回〕 学校と教育②思春期・青年期の心理発達
- 〔第8回〕 学校と教育③学校における臨床心理学的視点

- 〔第9回〕 学校と教育④発達障害と学校教育
- 〔第10回〕 教育とジェンダー①男女別学・男女共学
- 〔第11回〕 教育とジェンダー②性の多様性と人権教育
- 〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

- ・安藤寿康・鹿毛雅治編著『教育心理学』（通信テキスト、2013年）
- ・加えてプリントも適宜配布する。

#### ◆成績評価方法

リアクション・ペーパー、授業への貢献度、最終日の試験

<b>科目</b> <b>図書館・情報学</b>	2単位
<b>担当</b> 講師 長谷川豊祐	

大学生・社会人としての基本的情報リテラシーを学ぶ情報を正しく理解・評価・活用する基本的能力について、講義と演習によりスキルを高めます。レポートや論文の執筆に必要な文献の調査・入手、論文のテーマ設定などの実践的な知識が身に付きます。

- 〔第1回〕 オリエンテーション：論文執筆や課題解決ツールとしての「図書館・情報学」
- 〔第2回〕 メディアを組織化して利用者に提供する仕組みとしての「図書館」（1）
- 〔第3回〕 メディアを組織化して利用者に提供する仕組みとしての「図書館」（2）
- 〔第4回〕 情報を蓄積し伝達する図書、雑誌、インターネットなどの「情報メディア」（1）

- 〔第5回〕 情報を蓄積し伝達する図書、雑誌、インターネットなどの「情報メディア」（2）
- 〔第6回〕 情報メディアの収集、提供、保管を行うための「資料組織」（1）

- 〔第7回〕 情報メディアの収集、提供、保管を行うための「資料組織」（2）
- 〔第8回〕 データベースやインターネットで情報を探索・入手するための「情報検索」（1）
- 〔第9回〕 データベースやインターネットで情報を探索・入手するための「情報検索」（2）
- 〔第10回〕 社会人に必要なコミュニケーション技術としての「情報発信・学術情報流通」（1）
- 〔第11回〕 社会人に必要なコミュニケーション技術としての「情報発信・学術情報流通」（2）
- 〔第12回〕 総括、解説

#### ◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

- ・上田修一、倉田敬子編著『図書館情報学』（勁草書房、2013年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義の理解を助けるために、出席確認を兼ねた簡単な感想シートの提出を求める。学術論文の検索・要約の演習として、講義時間外での2回程度の課題提出を求める。

#### ◆成績評価方法

出席、課題提出、試験（最終回）により総合的に評価する。

## 第2類に属する科目

<b>科目</b> <b>日本史特殊</b>	2単位
<b>担当</b> 文学部助教 藤本 誠	

古代最古の仏教説話集である『日本現報善悪霊異記』（以下、『日本霊異記』）を素材として、古代社会を生きた官大寺の僧侶・私度僧・優婆塞（夷）・地方豪族・村落の有力者・商人・女性・貧窮者など様々な人々の生活や信仰の具体相について考察する。『日本霊異記』は仏教説話集であり、必ずしも即社会的実態を示すものではないが、近年、他の史料との比較などにより飛躍的に研究が深化し、他の史料には見られない古代社会の実態を窺える史料として注目されている。本講義では、近年の研究成果の紹介もしながら、具体的に『日本霊異記』の各説話を読んでいくことにより、古代社会の具体相について論じていきたい。

- 〔第1回〕 序—『日本霊異記』とは何か—
- 〔第2回〕 『日本霊異記』と平城京の官大寺の仏教Ⅰ
- 〔第3回〕 『日本霊異記』と平城京の官大寺の仏教Ⅱ
- 〔第4回〕 『日本霊異記』の道場法師系説話
- 〔第5回〕 『日本霊異記』における地方豪族の仏教
- 〔第6回〕 『日本霊異記』における村落の仏教
- 〔第7回〕 『日本霊異記』と私度僧・優婆塞（夷）
- 〔第8回〕 『日本霊異記』と聖徳太子

- 〔第9回〕 『日本霊異記』と交通・交易
- 〔第10回〕 『日本霊異記』と女性
- 〔第11回〕 『日本霊異記』と貧富
- 〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

#### ◆成績評価方法

- 最終日の試験による。

<b>科目</b> <b>西洋史特殊</b>	2単位
<b>担当</b> 講師 綾辺昌朋	

アメリカ合衆国の歴史を主に暴力、人種、人民主権の視点から講義します。毎回の授業で取り上げるテーマや事例のほとんどは、教科書や概説書に出てこないものです。あまり知られていないアメリカ民主主義の側面をお見せします。

- 〔第1回〕 イントロダクション、独立革命期の民衆（18世紀）
- 〔第2回〕 西部開拓地の民主主義（19世紀）
- 〔第3回〕 人種をめぐる争い（19世紀）
- 〔第4回〕 南北戦争後のアメリカ（1865年～1870年代）

る20世紀は、フランツ・カフカやトーマス・マン、ヘルマン・ヘッセが注目を集めるも、ナチ時代によって伝統的な国民文学の虚構は崩れ、戦後文学は政治体制の異なる西と東のドイツでゼロからの出発を余儀なくされた。授業の後半では現代文学につながる流れを概観する。

教科書的学校的文学史の知識も与えるが、本講義では文学史記述の新しい試みにならい、各時代の文学上のトピックや事件に焦点を当て、社会史・文化史的背景の説明に時間を割く。

〔第1回〕 文献案内、受容理論と文学史記述の問題：近代に発見された「中世」—「ニーベルンゲン」神話—

〔第2回〕 ゲーテンベルクの印刷術とルターの聖書—ドイツ語で書かれる文学の成立：民衆本の世界とバロック文学

〔第3回〕 啓蒙主義時代の読書熱：盗賊と秘密結社の小説

〔第4回〕 ゲーテ時代の到来（青年期～壮年期）

〔第5回〕 ゲーテ時代の終焉（壮年期～晩年）

〔第6回〕 ドイツ・ロマン派と対ナポレオン解放戦争

〔第7回〕 ビーダーマイアー（小市民的安逸）の文学と検閲

〔第8回〕 悪口の達者な書き手：ハイネとニーチェ

〔第9回〕 ウィーン世紀末と文学としてのフロイト

〔第10回〕 1913年と戦間期の文学：カフカ、マン、ヘッセ

〔第11回〕 ナチ時代の「過去の克服」と戦後文学

〔第12回〕 総括：21世紀の文学—ドイツ文学と日本文学、軍配はどっち？—

#### ◆テキスト

・手塚富雄・神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』、東京：岩波書店（岩波文庫）、1963年。

ISBN 978-4-00-350003-3

#### ◆参考文献

・授業初回で配布する文献案内で指示します。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

ドイツ語の知識はあるにこしたことはありませんが、ドイツ語の学習経験の有無は問いません。なにより翻訳のある作品をたくさん読んでください。絶版になった翻訳本もネットで簡単に手に入るようになりましたから、図書館をあてにするだけでなく、自腹を切って本を買いましょう。本代をケチらない読書家大歓迎です。

#### ◆成績評価方法

出席点（授業終了時に提出するアンケート・質問用紙）+最終日の試験による。

講義要綱は82ページを参照してください。

科目	英米散文研究	2単位
担当	文学部教授 大串尚代	

本講義では、植民地時代から19世紀にかけてアメリカ文学をジェンダーや人種の視点から概観することを目的とする。ホーソーン、エマソン、メルヴィルらなど、男性作家によるアメリカ文学の正典（キャンオン）とみなされる作品が出版された19世紀半ばは、同時に女性作家が、売り上げ的には男性作家をしのぐほどに、華々しく活躍した時代でもあった。アメリカの女性史をふまえつつ、植民地時代から19世紀半ばの第一波フェミニズム運動を経て、19世紀後半にいたるまでの女性文学の知識を深める。取り上げる予定の作家は、メアリ・ホホワイト・ローランドソン、アン・ハチンソン、スザンナ・ローソン、ハナ・アダムズ、キャサリン・マリア・セジウィック、リディア・マリア・チャイルド、ハリエット・ピーチャー・ストウ、ハリエット・ジェイコブズ、ルイザ・メイ・オルコット、など。

〔第1回〕 イントロダクション、捕囚体験記

〔第2回〕 アンチノミアン論争、セイラムの魔女狩り

〔第3回〕 誘惑小説

〔第4回〕 ユニテリアン論争

〔第5回〕 インディアン歴史小説

〔第6回〕 感傷小説

〔第7回〕 所感宣言

〔第8回〕 反奴隷制小説

〔第9回〕 家庭小説

〔第10回〕 幻の女性大統領候補

〔第11回〕 「新しい女性」に向けて

〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	ドイツ文学史	2単位
担当	文学部教授 識名章喜	

本講義では中世の『ニーベルンゲンの歌』に始まり、18世紀後半から19世紀前半の、「ゲーテ時代」と呼ばれるドイツ文学が最も輝いていた時期を経て、ドイツ統一後は創造的な文学活動の舞台がオーストリア（またはウィーン）に移行してゆく過程を、既訳のある作品を手掛かりに辿ってゆく。二つの世界大戦を経験す

### 第1・2・3類共通科目

科目	総合講座「アートやデザインで社会にかかわる学問—アートベース・リサーチの多様性—」	2単位
----	---	-----

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 後藤一樹  
講師 直井玲子 / 講師 山田 崇  
講師 坂倉杏介 / 講師 長津結一郎

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

・和田光弘『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

アメリカ史の概説書（例えば、上記参考書）に目を通しておくと、講義がわかりやすくなると思います。

#### ◆成績評価方法

最終日に行う論述式の筆記試験で評価します。

### 第3類に属する科目

科目	国文学	2単位
担当	文学部准教授 合山林太郎	

古代より漢文学は日本人にとっての基礎教養であり、多くの漢詩や漢文が日本人の手によって作られた。この授業では、とくに明治・大正期の漢文学の特色や意義について、専門の漢詩人から、近代文学者、政治家にいたるまで、様々な人物の作品を取り上げつつ、論じてゆく。必要に応じて、江戸時代の漢詩や近代小説についても言及する。

〔第1回〕 イントロダクション・幕末・明治初期の漢文学と成島柳北

〔第2回〕 漢詩人と明治20年代の文学—森鷗外『舞姫』を中心に—

〔第3回〕 伊藤博文と漢詩人—森槐南を中心に—

〔第4回〕 漢詩人としての正岡子規

〔第5回〕 詩歌の近代化と漢詩

〔第6回〕 永井荷風と江戸・明治の漢文学

〔第7回〕 近代の漢詩詞華集—日本漢詩における名詩の形成—

〔第8回〕 森鷗外の史伝と江戸の漢学

〔第9回〕 夏目漱石の漢詩を再考する

〔第10回〕 近代日中交流と筆談・唱和

〔第11回〕 近代の漢文教育・漢文教科書

〔第12回〕 まとめ・最終試験

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

とくに漢文の知識は必要ありません。大意などを説明しつつ、わかりやすく講義してゆきます。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	漢文学	2単位
担当	講師 植松公彦	

唐李瀚撰の『蒙求』は中国古代の著名人の伝記・逸話を集めた、当時の児童向けの教科書で、平安時代にはすでに日本にも伝わり、漢文初学者向けの教科書として広く長く用いられて、日本人の中国古代に対する知識・教養の源泉の一つになりました。

本講義では皆さんと一緒に『蒙求』の何篇かを読んで、漢文の歴史・文法・語彙などを学びながら、『蒙求』の内容を味わい、その背景にある、中国の伝統的な物事の見方について考えて、皆さんが今後も漢文を読んでいくための素地を養います。

〔第1回〕 日本における漢文の受容と展開について

〔第2回〕 『蒙求』と李瀚について

〔第3回〕 「墨子悲糸」を読む

〔第4回〕 「楊朱泣岐」を読む

〔第5回〕 「朱博烏集」を読む

〔第6回〕 「蕭芝雉随」を読む

〔第7回〕 「杜后生齒」を読む

〔第8回〕 「靈王出髭」を読む

〔第9回〕 「賈誼忌鵬」を読む

〔第10回〕 「莊周畏犧」を読む

〔第11回〕 「薦蒙求表」を読む

〔第12回〕 試験及び総括

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布します。

#### ◆参考文献

・加藤徹『漢文の素養—誰が日本文化をつくったのか?—』光文社新書（光文社、2006年）

・金文京『漢文と東アジア—訓読の文化圏—』岩波新書（岩波書店、2010年）

・齋藤希史『漢文脈と近代日本』角川ソフィア文庫（KADOKAWA、2014年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

返り点・送りがな・再読文字の使い方といった中学・高校で学ぶ程度の漢文訓読の基礎は、皆さんが理解していることを前提に講義を進めます。予習は必ずしもいりませんが、漢和辞典も引いて、復習は必ずしてください。

#### ◆成績評価方法

授業への参加度・最終日の試験によります。

## 他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★以下の科目の講義要綱は、経済学部専門教育科目を参照してください。

## 【第1類に属する科目】

**哲学特殊** 2単位 講師 鈴木 平  
「社会思想史」と同じ。

**社会学特殊** 2単位 講師 齋藤香里  
「社会政策」と同じ。

## 【第2類に属する科目】

**西洋史特殊** 2単位 講師 篠原洋治  
「専門外国書講読（英書）」と同じ。

**社会学特殊** 2単位 講師 永井攻治  
「社会福祉論」と同じ。

**人文地理学** 2単位 講師 花島誠人  
「経済地理」と同じ。

★以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

## 【第1類に属する科目】

**社会学特殊** 2単位 講師 宣 元錫

**マス・コミュニケーション論** 2単位 講師 山口 仁

**哲学特殊** 2単位 講師 速水淑子  
「政治思想論」と同じ。

**社会学特殊** 2単位 講師 狩野直樹  
「国際政治論」と同じ。

**社会学特殊** 2単位 講師 池田豊彦  
「政治過程論」と同じ。

**社会学特殊** 2単位 法学部教授 小川原正道 講師 門松秀樹  
「日本政治論」と同じ。

## 【第2類に属する科目】

**日本史特殊** 2単位 講師 漆原 徹  
「法制史」と同じ。

**日本史特殊** 2単位 講師 小田義幸  
「日本政治史」と同じ。

## 経済学部専門教育科目

**科目** 計量経済学 2単位

**担当** 講師 金志映

計量経済学は複雑な経済事象を、数量的に解明することを目的としている。具体的には、経済に関する何らかの仮説があり、これを検証するために実験計画をたて、実際に実験を行い、仮説の真偽を検討するという作業を行う。例えばガソリン価格の高騰は、ガソリンと補完関係にある自動車の需要にも影響を与えると考えられる。この影響を数量的に把握するために、ガソリン価格や自動車の販売台数といった資料を収集して解析することが行われている。このような一連の作業は、自然科学の諸分野と類似しているものの、経済学には統御実験ができないという特有の問題があり、仮説を検証できるような実験計画の立案を非常に困難にしている。本講義ではこのようなことを念頭におきながら、古典的回帰モデルを中心に一般に行われている実証分析の手法を、なるべく平易に解説していきたい。講義は概ね以下の内容を取り上げる予定であるが、履修者の状況によって適宜修正する。

〔第1回〕計量経済学とは（Ⅰ）：実験計画と資料の収集  
〔第2回〕計量経済学とは（Ⅱ）：計量経済学の歴史的な流れ、消費関数論争  
〔第3回〕最小二乗法（Ⅰ）：線形関係の推定  
〔第4回〕最小二乗法（Ⅱ）：最小二乗推定値、決定係数  
〔第5回〕単純回帰分析（Ⅰ）：単純回帰モデル  
〔第6回〕単純回帰分析（Ⅱ）：推定量 $\alpha$ と $\beta$ の期待値と分散、最良線型不偏性と一致性  
〔第7回〕単純回帰分析（Ⅲ）：t検定  
〔第8回〕多重回帰分析（Ⅰ）：多重回帰モデル、多重共線性  
〔第9回〕多重回帰分析（Ⅱ）：自由度修正済み決定係数、変数の過不足  
〔第10回〕モデルの関数型と特殊な変数：対数変換、ダミー変数  
〔第11回〕標準的仮定が満たされない場合：系列相関、不均一分散等  
〔第12回〕総括

◆テキスト  
・プリントを適宜配布する。

◆参考文献  
・山本拓『計量経済学』（新世社、1995年）  
・秋山裕『Rによる計量経済学』（オーム社、2009年）（市販書採用科目「計量経済学」テキスト）  
・小尾恵一郎『計量経済学入門—実証分析の基礎』（日本評論社、1972年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

1. 微分積分、確率の初歩的知識を身に付けていること。

2. 「統計学」（テキスト・スクリーニング、いずれも可）を履修済みであることを前提とする。  
3. 経済事象に関する疑問や仮説を具体的にもって講義に臨むと、内容を理解しやすいと思われる。  
4. 毎回の講義と最終試験時にはルートの計算ができる電卓を持参すること。ただし試験時は通信機能付きの電卓や関数電卓の使用は不可。

◆成績評価方法  
出席状況および最終日の試験の結果による評価。

**科目** 社会思想史 2単位

**担当** 講師 鈴木 平

社会思想史は、今とは異なる社会の私たちが共有していない価値観を含む思想の歴史です。そのなかから、現代の私たちの思考へすぐに適用できるものを見いだすことは容易ではありません。しかし、異なった考えを既成概念や先入観を通さずに学ぶことで、私たちはそれまで信じてきたことや世界観を客観的に見ることができるようになります。ときには再考や反省を余儀なくされるかもしれませんが、そのような経験を積み重ねるうちに、私たちの社会が直面している様々な問題について、公平な立場から熟考するための素地を、自らの内に育むことができるようになるでしょう。

このことは、思想の歴史から私たちが学ぶことができるもっとも大切な意義のひとつではないでしょうか。この講義では、近代の西洋思想のあゆみをたどりながら、近代と向き合い、社会を牽引した思想家たちの思考のエッセンスについて考察したいと思います。

〔第1回〕はじめに—社会思想とは何か  
〔第2回〕マキアヴェリの社会思想  
〔第3回〕宗教改革の社会思想  
〔第4回〕古典的「社会契約」思想の展開  
〔第5回〕ルソーの文明批判と人民主権論  
〔第6回〕スミスにおける経済学の成立  
〔第7回〕「哲学的急進主義」の社会思想—保守から改革へ  
〔第8回〕J・S・ミルにおける文明社会論の再建  
〔第9回〕西洋文明の危機とヴェーバー  
〔第10回〕現代「リベラリズム」の諸潮流  
〔第11回〕社会思想の歴史から何を学ぶか  
〔第12回〕総括

◆テキスト  
・坂本達哉『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）（市販書採用科目「社会思想史」テキスト）  
ISBN 978-4-8158-0770-2

◆参考文献  
・水田洋『新稿 社会思想小史』（ミネルヴァ書房、2006年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講生の皆様には、テキストの内容に即しながら、レジュメの作成や簡単なお報告を行っていただく予定です。

#### ◆成績評価方法

授業への出席回数と参加状況（レジュメ作成やご報告など）、最終日の試験（持込可）の結果をあわせて総合的に評価します。

科目	<b>専門外国書講読（英書）</b>	2 単位
担当	講師 篠原洋治	

本講座ではアナル派に端を発する社会史など、近年の歴史学の意欲的な試みを扱った論文を読みます。授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら内容の補足説明をしていきます。

今年度は、フランス18世紀研究の碩学ロバート・ダントン（Robert Darnton）の論文、「読むことの歴史*History of Reading*」を読みます。過去の人々が、何を、何のために、どこで、どのように読んだのかは、必ずしも自明ではありません。また、そうした読書行為は歴史的に変遷します。それゆえ、歴史学の対象となりうるものです。ロバート・ダントンは、史料をどこに求めるかを巨視的かつ微視的見地から再検討し、読書の歴史の方法論を提示しています。

〔第1回〕 イントロアナル派について

〔第2回〕 読む行為の歴史性

〔第3回〕 読者の反響

〔第4回〕 出版許可

〔第5回〕 個人蔵書

〔第6回〕 予約購読者リスト

〔第7回〕 貸出文庫の記録

〔第8回〕 「読書革命」

〔第9回〕 本の広告、出版趣意書

〔第10回〕 検閲者の役割

〔第11回〕 読書クラブ

〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・プリントを配布する。

#### ◆参考文献

・ロバート・ダーントン『猫の大虐殺』（岩波現代文庫、2007年）

・ロバート・ダーントン『革命前夜の地下出版』（岩波書店、2015年）

・ロバート・ダーントン『禁じられたベストセラー―革命前のフランス人は何を読んでいたか』（新曜社、2005年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

必ず予習をして来てください。

#### ◆成績評価方法

出席ならびに担当箇所の翻訳など平常点を重視し、最終日の試験も考慮に入れます。

科目	<b>社会政策</b>	2 単位
担当	講師 齋藤香里	

現代の社会政策は労働問題と社会保障によって構成されるが、本講義では日本の社会保障のあり方について「格差」に着目し、検討する。経済学の視点から、特に、医療保障、子どもの貧困、高齢者の介護問題を取り上げる。

〔第1回〕 イントロダクションー社会政策とは何か

〔第2回〕 社会政策の理論と歴史的展開

〔第3回〕 日本の社会保障制度の変遷と概要

〔第4回〕 医療① 日本の医療保障の概要と課題

〔第5回〕 医療② 医療における格差

〔第6回〕 子どもの貧困① 相対的貧困と絶対的貧困

〔第7回〕 子どもの貧困② 幼児教育の経済学

〔第8回〕 子どもの貧困③ 子どもの貧困への対策

〔第9回〕 高齢者の介護問題① 日本の介護保険制度

〔第10回〕 高齢者の介護問題② 日本の介護保険制度の課題

〔第11回〕 高齢者の介護問題③ ドイツの介護施策

〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

・駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策―福祉と労働の経済学』（有斐閣アルマ、2015年）

・阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』（岩波書店、2014年）

・ジェームス・J・ヘックマン『幼児教育の経済学』（東洋経済新報社、2015年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	<b>社会福祉論</b>	2 単位
担当	講師 永井攻治	

社会保障・福祉制度は成立と改革を相互に繰り返して現在の姿となった。その流れは、経済成長及び財政と深く関わっている。例えば、高度経済成長・財政拡充期に骨子が成立し、その後の安定成長・緊縮財政期に制度改革が多くなされている。この法則から考察すると、現在の低成長期は後者（改革期）と言える。それでは、これからの社会保障制度は、改革の名の下にどのような方向転換が迫られているのか。それは、これまでとは異なる状況、特に超高齢化社会においても破綻することのない福祉施策を講じる制度改革である。従来型の制度改革は、負担と給付の議論が先行していた。しかし、財政面のみから考えると、人口の高齢化、家族機能の変化、財政赤字等への対応策が問題である。現在の財政状況では、これからの福祉ニーズに十分な対応を施す事は困難である。また、戦後60年以上が経過し、日本の社会保障や福祉を取り巻く理念も「弱者救済から国民への安心の保障」へと変化している。

そこで本講義では、社会保障・福祉制度の歴史的展開と少子高齢化社会の社会保障・福祉制度の役割・各社会保険（医療・年金・福祉）と労働保険（労災・雇用保険）の制度を中心に学ぶ。そして、持続可能性のある社会保障・福祉制度の必要性と、超高齢化社会に対応した福祉施策のあり方とは何かを共に考える。

〔第1回〕 イントロダクション及び成熟化社会と社会保障

〔第2回〕 少子・高齢化社会の現状と動向

〔第3回〕 高齢化と日本経済

〔第4回〕 社会保障制度の機能

〔第5回〕 日本の年金制度の歴史的変遷①

〔第6回〕 日本の年金制度の歴史的変遷②

〔第7回〕 年金制度の概要①

〔第8回〕 年金制度の概要②

〔第9回〕 健康保険制度の概要

〔第10回〕 労働者災害補償保険制度の概要

〔第11回〕 働くルールと社会保障

〔第12回〕 総括「現在の社会保障制度の問題点について」

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する予定である。

#### ◆参考文献

・駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』（創成社、2011年）（市販書採用科目「社会政策（E）（J）」テキスト）

・その他、授業中に適宜指示する。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

日本の社会保障・福祉制度について関心を持つ塾生を歓迎する。担当教員の指導に非協力的な塾生の受講は歓迎しない。なお、講義終了後に毎回テーマを与え、自分なりの意見を提出してもらう予定である。また、最終日にグループディスカッションを行うかどうか検討中である。

#### ◆成績評価方法

「テスト」、「出席と課題提出」、「授業態度（増減点）」で評価する予定である（受講者数により臨機応変に判断するので、詳細は授業開始時に説明する）。

科目	<b>経済政策</b>	2 単位
担当	講師 野口尚洋	

新聞やテレビのニュースで、政府による経済政策は様々な形で報道されている。年金などの社会保障政策や雇用の創出などのマクロ経済政策などは多くの人にとっての関心事項であろう。特に、将来に対する不確実さや国際化の波による伝統的な日本の経済構造の崩壊に直面している今、政府による経済政策の重要性は日増しに高まっている。

本講義では、経済学の中で経済政策を理解することにより経済理論に裏打ちされた目でこれら政策について自分なりに理解出来るようになることを目標とする。

具体的な講義内容は以下の通り。

〔第1回〕 ミクロ経済学の復習

〔第2回〕 市場への政府介入

〔第3回〕 公益事業と競争政策

〔第4回〕 外部性と公共財

〔第5回〕 ミクロ経済政策の復習

〔第6回〕 マクロ経済学の復習

〔第7回〕 安定化政策の基礎と財政金融政策

〔第8回〕 インフレ・デフレと失業

〔第9回〕 安定化政策の現代的課題

〔第10回〕 税制の効率性と公平性

〔第11回〕 現実のトピックス

〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール 経済政策入門』（日本経済新聞出版社、2006年）

ISBN 978- 4-532-13310- 8

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

ミクロ経済学、マクロ経済学の復習も講義の中で行う予定ているが、時間の関係上、それほど詳しく説明できないので、経済原論（ミクロ経済学やマクロ経済学など）の講義を履修しているか、または講義までにある程度の知識を身につけていることを前提とする。

#### ◆成績評価方法

最後の試験によって評価するが、数回は当日扱った内容に対するレポートを講義内に作成し提出していただき、それも評価の対象とする。

科目	<b>金融論</b>	2 単位
担当	講師 山上秀文	

グローバル化が進む現在の日本経済を理解し、その将来を展望するためには、金融の実際と理論を理解することが不可欠である。

この講義では、第1回から第7回まで資金の循環を中心に様々な角度より金融の実際を説明する。その上で第8回から第11回まではその実際の動きの背後にある金融の理論を学ぶ。その中で変化の激しい金融の働きを実際と理論の両面から理解してほしい。

〔第1回〕 資金循環と資金の過不足

〔第2回〕 企業の資金調達と投資

〔第3回〕 金融商品のリスク制御と価格計算

〔第4回〕 金融機関の仲介機能と証券市場

〔第5回〕 金融行政と金融政策

〔第6回〕 財政と財政投融资

〔第7回〕 貿易・資本移動と外国為替

〔第8回〕 金融のミクロ理論（家計の金融行動）

〔第9回〕 金融のミクロ理論（企業と銀行の金融行動）

〔第10回〕 金融のマクロ理論（IS-LMモデル、IS-LM-BPモデル）

〔第11回〕 金融のマクロ理論（総需要―総供給モデル、期待形成）

〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・吉野直行・山上秀文著『金融論』（通信テキスト、2017年）

#### ◆参考文献

・山上秀文著『東アジアの新しい金融・資本市場の構築』（日本評論社、第1版第2刷、2016年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

金融の理論的側面理解のためには、経済学を履修済であることが望ましいが、必須の前提ではない。講義

ではまず金融の実際を、必要に応じて経済学の基礎に立ち戻りながら説明し、その理解に基づいて金融の理論を学ぶ。なお、テキストに加えて担当者自作の補助プリント教材も、あわせて使用する。

◆**成績評価方法**

最終日の試験による。ただし一定のスクーリング出席を前提とする。

科目	国際経済学	2単位
担当	講師 久野 新	

国と国とが貿易を行うのは何故なのか。ある国の主要貿易品目はどのように決定されるのか。貿易自由化や自由貿易参加の是非をめぐり国内でも意見が衝突するのは何故なのか？ 外国人労働者の受け入れが一国の経済に与える影響はどのようなものなのか？

本講義では、広義の国際経済学のなかでも国際貿易論と呼ばれる領域の理論の基礎を学び、こうした諸問題について受講者が自ら考察できるようになるための訓練を行う。

・学習の到達目標

本講義で登場する基礎的な用語や理論について、第三者に対して説明できるようになること。

講義内容は以下を予定している。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 部分均衡分析の方法論（復習）

〔第3回〕 貿易政策の基礎

〔第4回〕 貿易政策の応用

〔第5回〕 比較優位と分業の利益（1）

〔第6回〕 比較優位と分業の利益（2）

〔第7回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（1）

〔第8回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（2）

〔第9回〕 地域貿易協定（1）

〔第10回〕 地域貿易協定（2）

〔第11回〕 国際要素移動（資本や労働の国際移動）

〔第12回〕 総括

◆**テキスト**

・石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ〔第2版〕』（有斐閣、2013年）ISBN 978-4-641-17719-2

◆**受講上の要望または受講上の前提条件**

経済原論を履修済みであることが望ましい。

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

◆**成績評価方法**

最終日の試験（持ち込み不可）のみで評価する。

科目	世界経済論	2単位
担当	講師 宮崎礼二	

21世紀の世界は、2001年の同時テロ、2008年のサブプライムローン問題に端を発する国際金融危機とその後の世界同時不況、そしてヨーロッパ財政危機を契機とするユーロ解体の懸念など、第二次世界大戦後に経験することのなかった「危機の連鎖的状況」で始まった。さらに、BRICSに象徴される新興国の台頭は、19世紀・20世紀の帝国主義列強諸国・先進工業国中

心の世界経済地図を大きく書き換えつつある。中国の台頭は覇権国アメリカとの対抗関係を強めてもいる。また、イギリスのEU離脱やアメリカでのトランプ政権成立に象徴されるように、先進国の多くで「グローバル化恐怖症」(globaphobia) がそれまでのグローバル化の興隆を凌駕しようとしている。不確定かつ不確実性の高まる時代を予兆させる。

本講義は今日の世界経済を理解するために、第二次世界大戦後から今日に至る世界経済の展開と変遷を、国際的な経済関係からグローバルな経済への移行とその構造変化に焦点を当てながら、政治経済学的に考察をおこなう。さらに、この変遷過程に、現実経済と経済思想との関係性を見出し、政策面からも世界経済を捉える。講義では、個々の具体的な政治経済事象や政策展開を時系列的に取り上げ、それらの政治経済的な意味とそれらが現実の世界経済にどのような影響をもたらし、またどのような意義をもったのかを論じたい。したがって、本講義は理論を中心とする「学」ではなく、事実を踏まえて解釈する「論」に重きをおく。つまり、定量的ではなく定性的分析が主たるアプローチである。

〔第1回〕 講義ガイダンス&イントロダクション

〔第2回〕 世界経済秩序の形成―戦後自由貿易体制の背景と枠組み―

〔第3回〕 戦後構想と現実との乖離―米国の対外援助政策の意義―

〔第4回〕 Pax Americanaの基盤―アメリカの中東石油政策とエネルギー革命―

〔第5回〕 国民国家を超越する多国籍資本の台頭

〔第6回〕 多国籍資本の時代―金と国民国家の「呪縛」からの解放―

〔第7回〕 Pax Americanaへの挑戦―オイル・ショックとその帰結―

〔第8回〕 レーガノミクスの世界経済への影響

〔第9回〕 ポスト冷戦の幕開けとグローバル化の胎動

〔第10回〕 バブル連鎖―サブプライム・バブル崩壊と世界同時不況―

〔第11回〕 世界経済秩序を巡る米中対抗の構図：TPP vs. B & R

〔第12回〕 Trumponomicsと世界経済―グローバル化の行方―

◆**テキスト**

・新岡智・板木雅彦・増田正人編『国際経済政策論』（有斐閣、2005年）ISBN 978-4-641-18318-6

◆**参考文献**

・中本悟・宮崎礼二編『現代アメリカ経済分析』（日本評論社、2013年）

・柴田徳太郎『資本主義の暴走をいかに抑えるか』（ちくま新書、2009年）

・その他、講義中に適宜紹介する。

◆**受講上の要望または受講上の前提条件**

講義は連続「物語」形式で前回までの内容を踏まえて進行するので、やむを得ない事情以外は、できるだけ欠席しないように努めること。また、講義の中では具体的事象が多く取り扱われるが、個別具体が世界経済全体においてどのような意味や意義をもつのかを常

に意識して、具体的事象の把握から抽象化・概念化を目指してほしい。

◆**成績評価方法**

最終レポートと授業参加で総合的に評価する。

科目	経済地理	2単位
担当	講師 花鳥誠人	

この講義では、経済地理学の概念枠組を理解し、基礎的な理論と分析手法を知ることによって、現実の社会・経済的課題に取り組むための経済地理的視点を学ぶことを目的とする。

地理学は、地表に生起する事象（地理的事象）に関する学問である。経済地理学は、その中でも特に人間の経済行動に焦点を当てた分野であり、経済学はもちろんのこと、社会学、経営学、歴史学、行動科学、情報学など多様な学問とクロスオーバーする広い領域を対象としている。特に近年は、地理情報システム(GIS)をはじめとする高度な情報ツールを誰もが容易に利用できるようになり、社会・経済的課題に対して空間的視点からアプローチが試みられるようになってきている中で、それらの取組における理論的バックグラウンドとして、経済地理学が果たす役割は重要性を増していると言えよう。この講義では、以下に示すように、理論だけでなく実際のデータや分析事例、さらには筆者の専門分野である防災における地理学の役割などについても紹介していきたい。

〔第1回〕 イントロダクション：ディシプリンとフレームワーク

〔第2回〕 経済地理学の理論と方法

〔第3回〕 日本の地理空間情報

〔第4回〕 日本の地域統計情報

〔第5回〕 地理情報分析の基礎①

〔第6回〕 地理情報分析の基礎②

〔第7回〕 地理情報システム（GIS）

〔第8回〕 地理情報科学と経済地理学

〔第9回〕 防災と地理空間情報①

〔第10回〕 防災と地理空間情報②

〔第11回〕 歴史地理学への招待

〔第12回〕 総括（試験）

◆**テキスト**

・テキストは指定しない。適宜プリントを配布する。

◆**参考文献**

・杉浦章介／松原彰子／武山政直／高木勇夫『人文地理学』（通信テキスト、2005年）

・小林茂／宮澤仁『グローバル化時代の人文地理学』（放送大学教育振興会、2012年）

・杉浦芳夫（編）『地理空間分析』（朝倉書店、2003年）

・菅野峰明／高坂宏行／安仁屋政武『地理的情報の分析手法』（古今書院、2000年）

・ピーター・ディッケン／ピーター・E・ロイド『立地と空間（上・下）』（古今書院、1997年）

・HGIS研究協議会編『歴史GISの地平』（勉誠出版、2012年）

◆**受講上の要望または受講上の前提条件**

講義の中でインターネット上の情報源に言及することが多いので、必須ではないが塾内ネットワークアカ

ウントを取得しているか、インターネットにアクセスする手段を有していることが望ましい。（授業で実習等は行わない。）

インターネットやWebサイトの閲覧方法に関する基礎知識、仕事や学業でコンピュータの利用経験があることが望ましい。

◆**成績評価方法**

出席状況（特に重視する）、授業への参加状況、最終日の試験により評価する。

科目	経営学	2単位
担当	商学部教授 菊澤研宗	

この講義では、経営学と経済学との違いから説明し、経営学の特徴を述べるとともに、現代経営学の中心的分野である経営戦略論を中心に講義する。特に、経営戦略論の流れとともに、現在、必要とされている多元的な経営戦略論について説明する予定である。

〔第1回〕 所有と支配の分離論：原理

〔第2回〕 所有と支配の分離論：効果

〔第3回〕 戦略と多元的世界観

〔第4回〕 物理的世界の戦略論：ポーターの戦略論前史

〔第5回〕 物理的世界の戦略論：ポーターの競争戦略論

〔第6回〕 資源ベース論

〔第7回〕 ブルーオーシャン戦略

〔第8回〕 心理的世界の戦略論1：プロスペクト理論

〔第9回〕 心理的世界の戦略論2：心理会計論

〔第10回〕 知性的世界の戦略：取引コスト理論

〔第11回〕 多元的戦略論

〔第12回〕 総括

◆**テキスト**

・菊澤研宗『戦略学―立体的戦略の原理』（ダイヤモンド社、2008年）ISBN 978-4-478-00607-8

◆**参考文献**

・なし

◆**受講上の要望または受講上の前提条件**

毎回1回完結の講義をしますので、1度休んでも、次の講義は理解できると思います。講義の後に、質問を受け付けます。第3回以降は、テキストに沿って講義をしますので、深く勉強したい人はテキストの購入を勧めます。

◆**成績評価方法**

最終日の試験による。

科目	産業関係論	2単位
担当	商学部教授 八代充史	

この講義では、産業関係論の様々な側面の中で特に人的資源管理について講義を行う。人的資源管理とは、市場経済で最大利潤獲得を目的にした企業が、どうしたら従業員を合理的に活用し、また彼らのやる気を高めることができるかを研究する学問である。ここでは、人的資源管理を①理論、②実態、③国際比較、の3つ

# 法学部専門教育科目

E

**科目** 憲法 2単位

**担当** 講師 岡田順太

日本国憲法の諸論点を明確にし、典型的な解釈論から立法論（改憲論）まで、最先端の憲法論を展開したい。具体的には、次の論点を予定している。

- 〔第1回〕 憲法の基本原則・基本構造
- 〔第2回〕 人権享受の主体適格
- 〔第3回〕 消極的権利（1）
- 〔第4回〕 消極的権利（2）
- 〔第5回〕 積極的権利（受益権、社会権）
- 〔第6回〕 複合的権利／能動的権利
- 〔第7回〕 天皇
- 〔第8回〕 国会／内閣
- 〔第9回〕 裁判所
- 〔第10回〕 財政／地方自治
- 〔第11回〕 安全保障
- 〔第12回〕 総括

◆ **テキスト**  
・駒村圭吾編『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年）（市販書採用科目「新・憲法（E）（J）」テキスト） ISBN 978-4-3350-0091-1

◆ **参考文献**  
・必要に応じて授業中に指示する。

◆ **受講上の要望または受講上の前提条件**  
特別な予習は必要ないが、毎回出席して、克明にノートを取り、思考を廻らせてほしい。また、『六法』（判例要旨付のものが望ましい）を毎回携行してほしい。具体例を挙げ平明に講義するつもりである。

◆ **成績評価方法**  
8割以上の出席を試験受験資格とし、採点は寛大に行う。

**科目** 民法 2単位

**担当** 法学部准教授 前田美千代／講師 阿部 史

本講義は、民法財産法に関する基礎的知識の習得と、法的思考力の涵養を目的とします。そのために、民法総則・物権法・債権法のなかから、重要なトピックを抽出して解説します。具体的には、民法の基礎、契約の意義・成立・効力・履行・不履行、物権の意義・変動、担保物権の意義・効力、不法行為などを取り上げる予定です。

民法財産法は契約、所有、不法行為の3つを柱としていますが、本講義ではその全体をカバーすることになります。講義の際には、基礎的な事柄のみならず、応用的ないし発展的な論点にも立ち入って解説します。

- 〔第1回〕 民法ガイダンス・民法の構造
- 〔第2回〕 不法行為
- 〔第3回〕 契約総論

- 〔第4回〕 法律行為①
- 〔第5回〕 法律行為②
- 〔第6回〕 契約各論
- 〔第7回〕 物権法総論
- 〔第8回〕 物権各論①
- 〔第9回〕 物権各論②
- 〔第10回〕 担保物権①
- 〔第11回〕 担保物権②
- 〔第12回〕 総括

◆ **テキスト**  
・野村豊弘『民法法入門〔第6版〕』（有斐閣アルマ、2014年） ISBN 978-4-641-22029-4

・その他、プリントを適宜配布する。

◆ **参考文献**  
・後藤巻則ほか編『プロセス講義民法Ⅳ 債権1』（信山社、2016年）  
・後藤巻則ほか編『プロセス講義民法Ⅴ 債権2』（信山社、2016年）  
・淡路剛久=鎌田薫=原田純孝=生熊長幸『民法Ⅱ―物権〔第3版補訂版〕』（有斐閣Sシリーズ、2010年）

◆ **受講上の要望ないし受講上の前提条件**  
本講義を受講する際には、六法（小型のものでよい）を毎回かならず持参してきてください。本講義受講上の前提条件はとくにありませんが、参考文献につき簡単に目を通しておくと講義の理解が進むと思います。

◆ **成績評価方法**  
試験の結果により評価します。

**科目** 刑法 2単位

**担当** 法学部専任講師 藪中 悠

本年度の夜間スクーリングでは、刑法各論の講義を行います。刑法各論は、殺人罪、強盗罪、放火罪といった各種犯罪の成立要件や犯罪相互の関係を研究の対象とします。講義は、基本的な内容から始め、事例問題にも取り組みながら、徐々に発展的な内容へと進む、といったスタイルで行いたいと考えています。なお、必要に応じて刑法総論の内容も確認し、また、適宜、刑法のレポート等に取り組み際に必要な情報の収集・利用方法についても言及する予定です。

- 〔第1回〕 総説、刑法による生命の保護
- 〔第2回〕 刑法による身体の保護
- 〔第3回〕 被害者の同意をめぐる諸問題
- 〔第4回〕 自由とその保護①
- 〔第5回〕 自由とその保護②、小テスト①
- 〔第6回〕 財産犯総論
- 〔第7回〕 財産犯各論①
- 〔第8回〕 財産犯各論②
- 〔第9回〕 危険犯、放火罪、小テスト②

の側面から講ずることにしたい。

- 〔第1回〕 人的資源管理の諸概念（1）
- 〔第2回〕 人的資源管理の諸概念（2）
- 〔第3回〕 労働市場と人的資源管理
- 〔第4回〕 人的資源管理の組織—人事部門・人事制度
- 〔第5回〕 人的資源管理の諸領域—（1）募集・採用
- 〔第6回〕 人的資源管理の諸領域—（2）配置・異動
- 〔第7回〕 人的資源管理の諸領域—（3）昇進・昇格
- 〔第8回〕 人的資源管理の諸領域—（4）人事考課
- 〔第9回〕 人的資源管理の諸領域—（5）賃金
- 〔第10回〕 人的資源管理の国際比較（1）
- 〔第11回〕 人的資源管理の国際比較（2）
- 〔第12回〕 総括

◆ **テキスト**  
・八代充史『人的資源管理論〔第2版〕』（中央経済社、2014年） ISBN 978-4-502-08850-6

◆ **参考文献**  
・八代充史・南雲智映『ライブ講義 はじめての人事

管理〔第2版〕』（泉文堂、2015年）

◆ **受講上の要望または受講上の前提条件**  
なるべく講義開始時間に着席しているようにして下さい。

◆ **成績評価の方法**  
スクーリング期間の最終日に実施する試験によって、評価を行います。  
※この科目は、大阪（夜間）スクーリングでも開講されます。

**科目** 総合講座「アートやデザインで社会にかかわる学問—アートベース・リサーチの多様性—」 2単位

**担当** 文学部教授 岡原正幸／講師 後藤一樹  
講師 直井玲子／講師 山田 崇  
講師 坂倉杏介／講師 長津結一郎

講義要綱は82ページを参照してください

## 他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★ 以下の科目の講義要綱は、文学部専門教育科目を参照してください。

哲学（専門） 2単位 講師 小草 泰  
講師 田子山和歌子

社会心理学（専門） 2単位 講師 村山 陽

図書館・情報学 2単位 講師 長谷川豊祐

日本史特殊 2単位 文学部助教 藤本 誠

西洋史特殊 2単位 講師 綾辺昌朋

★ 以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

憲法 2単位 講師 岡田順太

民法 2単位 法学部准教授 前田美千代  
講師 阿部 史

刑法 2単位 法学部専任講師 藪中 悠

行政法 2単位 講師 仲田孝仁

法制史 2単位 講師 漆原 徹

社会学特殊 2単位 講師 宣 元錫

マス・コミュニケーション論 2単位  
講師 山口 仁

政治思想論 2単位 講師 速水淑子

国際政治論 2単位 講師 狩野直樹

政治過程論 2単位 講師 池田豊彦

日本政治史 2単位 講師 小田義幸

日本政治論 2単位 法学部教授 小川原正道  
講師 門松秀樹

〔第10回〕 文書偽造罪、風俗犯

〔第11回〕 国家的法益の保護

〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト

・井田良『入門刑法学・各論』（有斐閣、2013年） ISBN 978-4-641-04296-4

◆参考文献

・井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣、2016年）  
・山口厚・佐伯仁志（編）『刑法判例百選II 各論〔第7版〕』（有斐閣、2014年）  
・山口厚『刑法各論〔第2版〕』（有斐閣、2010年）  
・松原芳博『刑法各論』（日本評論社、2016年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

開講前に予習として、井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第5版〕』（有斐閣、2013年）の第7章～第9章を（刑法総論の学習経験がない方は第10章～第16章も）読んでおくことをお勧めします。

◆成績評価方法

成績は2回の小テスト及び最終日に実施する試験により評価します。

科目 民事訴訟法	2単位
担当 講師 金美紗	

私人間では、実体法上の権利の存否をめぐり、さまざまな紛争が生じうる。たとえば、「目的物を引き渡したにもかかわらず、買主が売買代金を支払ってくれない」というケースでは、売買代金債権の存否について、売主と買主の間で争いが生じている。このような場合、私人は、紛争解決の手段として、民事訴訟を利用することができる。民事訴訟は、裁判所の「判決」によって、権利の存否を確定させる公的な紛争解決手続であり、具体的には、訴えの提起により開始され、裁判所が下した判決が確定することによって終了する。本講義では、以下の要領に従い、民事訴訟手続の基本構造について学習する。

〔第1回〕 民事紛争を解決するための諸制度、民事訴訟手続の流れ

〔第2回〕 訴えの種類、訴訟物

〔第3回〕 訴訟要件、訴えの利益

〔第4回〕 当事者に関連する幾つかの事項―当事者の確定、訴訟上の代理、訴訟担当

〔第5回〕 処分権主義

〔第6回〕 弁論主義①（主張原則）

〔第7回〕 弁論主義②（自白原則）

〔第8回〕 自由心証主義、証明責任

〔第9回〕 証拠調べ手続

〔第10回〕 判決の既判力

〔第11回〕 上訴

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』（有斐閣、2012年） ISBN 978-4-641-13623-6

◆受講上の要望または受講上の前提条件

民事訴訟の対象となる私法上の権利および法律関係は、実体法である民法や商法などにおいて定められて

いる。したがって、本講義の履修を希望する者には、民事訴訟法を学習する前提として、民法、特に財産法についてひと通りの基礎知識があることが望まれる。また、講義には必ず最新の六法（コンパクト六法、ポケット六法、デイリー六法などの小型のものでよい）を持参すること。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 行政法	2単位
担当 講師 仲田孝仁	

講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員として任用された場合は、実際に法律や条例を運用する。民間企業であっても行政の規制が及ばない業種・業界はないと言っても過言ではない（許認可事項は1万件（14818件、平成26年4月1日時点）を越える）。さらに、一市民としても、運転免許や各種営業許可の取得、申請・届出、家庭ごみの収集、生活保護費の受給、年金、税金の課税処分など行政とのかかわりは切っても切れない（東京メトロ（地の底）から「宇宙航空研究開発機構（JAXA、独立行政法人）」（宇宙）まで）。よって、現職の公務員であれ、会社員、一般市民いずれの立場であれ、「行政法」を学習する意味がある。本講義は、「行政法」の入門的な知識を受講者に習得・理解させることを目的とする。さらに、実社会に生起する諸問題を、「行政法」的思考法で模索、解決することをも意図する。向学心旺盛な学生諸君の受講を期待する。

〔第1回〕 イントロー「行政法」を学ぶ前に。「行政法」とはいかなる法か。「行政法」を学習する意義について。「行政法」の歴史、公法・私法二元論について（農地改革、租税法律関係と民法177条。公営住宅の利用関係）。

〔第2回〕 行政法の諸原則―法律による行政の原理、侵害留保説、その他の諸原則について。

〔第3回〕 行政組織法概説―行政主体、行政機関概念について、国家行政組織法について。

〔第4回〕 行政行為概説―行政行為、行政裁量、行政行為の諸分類について。附款について。日光太郎杉事件、マクリーン事件、伊方原発訴訟（原子炉等規制法、原子力規制委員会）など。

〔第5回〕 行政行為の取消・無効、行政行為の撤回―ガントレット事件、菊田医師事件について。

〔第6回〕 行政手続法概説―申請に対する処分、不利益処分（聴聞手続）、行政指導手続など。個人タクシー事件、品川マンション事件、理由付記など。

〔第7回〕 行政の実効性確保の手段―行政代執行、即時強制、行政罰について。

〔第8回〕 行政救済法概説―損失補償について（名取川事件、奈良県ため池条例事件、土地収用法と損失補償など）。

〔第9回〕 行政不服申立て概説―行政不服審査法につ

いて。平成26年改正法について（審査請求、審理員、行政不服審査会）。

〔第10回〕 国家賠償法概説―1条責任と2条責任について（学校事故、パトカーによる追跡、高知落石事故、水害訴訟〈大東、多摩川水害訴訟〉など）。

〔第11回〕 行政事件訴訟概説（1）―行政訴訟の訴訟類型について。取消訴訟、処分性、原告適格（訴えの利益）について。

〔第12回〕 行政事件訴訟概説（2）―義務付け訴訟、差止め訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟〈住民訴訟〉について。

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第5版〕』（弘文堂、2016年）（市販書採用科目「行政法」テキスト）  
・中原茂樹『基本行政法〔第2版〕』（日本評論社、2015年）  
・宇賀克也『行政法概説I 行政法総論〔第5版〕』（有斐閣、2013年）  
・宇賀克也『行政法概説II 行政救済法〔第5版〕』（有斐閣、2015年）  
・塩野宏『行政法I 行政法総論〔第6版〕』（有斐閣、2015年）  
・原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』（学陽書房、2012年）  
・芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）  
・宇賀克也他編『行政法判例百選I〔第6版〕（別冊ジュリスト211）』（有斐閣、2012年）  
・宇賀克也他編『行政法判例百選II〔第6版〕（別冊ジュリスト212）』（有斐閣、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「行政法」は「法律学」の中では、応用科目に属する。そのため、「憲法」、「民法」、「刑法」といった基幹的な科目を履修中であることが望ましい。また、行政訴訟との関連では、「民事訴訟法」も履修中であることも望ましい。とはいえ、例年、少数ではあるが、経済学部の履修者もいらっしゃるので、基礎的な法律学の内容もフォローする予定である。学習する範囲が広いので、毎回受講後の復習は必要不可欠である。また、担当者が事前に予習を課した内容については、必ず予習しておくこと。

◆成績評価方法

スクーリングにすべて出席したことを前提として期末試験により評価する。欠席は原則として認めない。病欠や仕事でも例外はない。期末試験を重視する。場合によっては、小テストを実施するか、または小レポート課題などを課した場合はそれらについても評価対象として加点する。くれぐれも欠席しないこと。

科目 法制史	2単位
担当 講師 漆原 徹	

日本中世武家社会の制度と法律の理解を深めることを目的とし、鎌倉・室町幕府法で定める制度や法の中

で、幕府・守護・御家人三者間の関係や、中世社会の諸相を学んでいきます。

〔第1回〕 武家社会の形成

院政期の源氏と平氏政権、そして鎌倉幕府の成立と展開していく武家社会における武家の慣習法と公家法について

〔第2回〕 鎌倉幕府の成立と承久の乱
鎌倉幕府成立の諸説と幕府の制度と法について

〔第3回〕 貞永式目
執権政治と将軍家
貞永式目1～20条

〔第4回〕 貞永式目
貞永式目21～40条
訴訟制度と沙汰未練書

〔第5回〕 貞永式目
貞永式目41～51条と追加法

〔第6回〕 鎌倉幕府の滅亡と建武政権
蒙古襲来と武家社会の容容及び鎌倉幕府の滅亡
建武政権の政策の失敗

〔第7回〕 足利政権の樹立と南北朝動乱
建武式目と守護・大将制度

〔第8回〕 室町幕府追加法

〔第9回〕 戦国家法
今川仮名目録と今川家

〔第10回〕 戦国家法
今川仮名目録

〔第11回〕 戦国家法
今川仮名目録と甲州法度之次第

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・霞信彦・漆原徹・浜野潔『日本法制史史料集』（慶應義塾大学出版会、2003年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

授業内小レポート30%

最終日実施試験70%

科目 社会学特殊	2単位
担当 講師 宣元錫	

〔講義概要〕

グローバル化の進展とともに国家や文化圏をまたがる「人の移動」が活発になっている。移動を促進・制限する要因は何か、移動が移住元・移住先、そして移住者に与える影響は何か。この講義ではこれらの問題関心について、人の移動に関する理論と、日本や諸外国の例を取り上げながら、理解を深めていきたい。受講生には各自テーマを設定して自主研究を行い、報告とレポート提出を求める。

〔第1回〕 オリエンテーション、講義の紹介と受講生の関心を聞くアンケート

〔第2回〕 移民と国家

- 〔第3回〕 移民ネットワーク
- 〔第4回〕 国境を超える労働者
- 〔第5回〕 生活者としての移民
- 〔第6回〕 日本社会の移民
- 〔第7回〕 日本の移民政策
- 〔第8回〕 諸外国時の事例：アメリカ
- 〔第9回〕 諸外国の事例：フランス
- 〔第10回〕 諸外国の事例：韓国
- 〔第11回〕 多文化社会の将来
- 〔第12回〕 個人研究報告

#### ◆テキスト

・宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂『国際社会学』（有斐閣、2015年）ISBN 978-4-641-17406-1

#### ◆参考文献

・大澤真幸・塩原良和・橋本努・和田伸一郎『ナショナリズムとグローバリズム』（新曜社、2015年）  
・渡戸一郎・井沢泰樹『多民族化社会・日本』（明石書店、2010年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講生は1回目の授業の時に、自身の興味関心のあるテーマを設定して、それについて自主研究を行い、報告とレポートの作成が義務となる。自主研究については授業の中で随時アドバイスする。

#### ◆成績評価方法

出席と授業への参加度、自主研究の報告とレポートを総合して評価する。

科目	マス・コミュニケーション論	2単位
担当	講師 山口仁	

マス・コミュニケーションに関する様々な概念や理論の理解を深めることを目的とする。前半はコミュニケーションや政治社会に関する基本的な考え方を、後半はマス・コミュニケーションに関する理論や研究アプローチに関する解説を行う予定である。

- 〔第1回〕 コミュニケーションの基本概念①
- 〔第2回〕 コミュニケーションの基本概念②
- 〔第3回〕 コミュニケーションの基本概念③
- 〔第4回〕 コミュニケーションと社会構造
- 〔第5回〕 近代社会とマス・コミュニケーション
- 〔第6回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷①
- 〔第7回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷②

- 〔第8回〕 政治コミュニケーション論の展開①
- 〔第9回〕 政治コミュニケーション論の展開②
- 〔第10回〕 マス・コミュニケーション論とジャーナリズム論①
- 〔第11回〕 マス・コミュニケーション論とジャーナリズム論②
- 〔第12回〕 総括・解説

#### ◆テキスト

・大石裕『コミュニケーション論』（通信テキスト、2016年）

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	政治思想論	2単位
担当	講師 速水淑子	

今日の政治の基礎をなす概念ないし原理について、それがどのような歴史を有し、どのように議論されてきたかを紹介し、現代においてどのような問題に直面しているのかを考える。授業では、「デモクラシー」、「人権」、「立憲主義」といった（今日の政治において重要な）概念について長い議論の歴史を有するヨーロッパおよび北米の政治と思想を中心に扱う。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 権力
- 〔第3回〕 法
- 〔第4回〕 デモクラシー①
- 〔第5回〕 デモクラシー②
- 〔第6回〕 個人の自由とリベラリズム
- 〔第7回〕 市民社会と不平等
- 〔第8回〕 人権
- 〔第9回〕 ナショナリズム
- 〔第10回〕 フェミニズム
- 〔第11回〕 戦争と平和
- 〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

・川崎修・杉田敦編『現代政治理論〔新版〕』（有斐閣、2012年）  
・山岡龍一、川出良枝『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）  
・坂本達哉『社会思想の歴史』（名古屋大学出版会、2014年）（市販書採用科目「社会思想史」テキスト）  
・堤林剣『政治思想史』（通信テキスト、2016年）

#### ◆成績評価方法

出席状況および最終日の試験による。

科目	国際政治論	2単位
担当	講師 狩野直樹	

本科目はゼミナール形式で行い、2つのパートから構成されます。

第9回まではテキストを輪読します。具体的には毎回1章ずつ1～2名の受講者が分担しレジュメを作成して、全員に配布するとともに口頭で報告する手法を採ります。その後、章末の「学習上の論点」を題材にして、討論者1名がテキスト以外の文献を参照・紹介しながら問題を提起し、全員でディスカッションをします。

後半3回は受講者が各々の興味関心にしたがってテーマを設定し、調べ、発表し、議論する場とします。テーマは国際政治や国際関係に関連すれば何でも構いません。とりあげる場所や時代も自由です。

これらの過程を通じて、国際政治の基礎を学びつつ、自分で思考する訓練をすることが本授業の目的です。

なお初回授業では自己紹介も兼ねて、関心のあることを3分間ほどで発表してもらいます。多少曖昧で大づかみでもよいので準備しておいてください。また第2回から9回目までの報告者と討論者を割り振るので、受講者は初回から出席してください。

- 〔第1回〕 イントロダクション、テキストの輪読（第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?）
- 〔第2回〕 テキストの輪読（第2章 紛争と協調を説明する——知の技法）
- 〔第3回〕 テキストの輪読（第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで）
- 〔第4回〕 テキストの輪読（第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦）
- 〔第5回〕 テキストの輪読（第5章 冷戦）
- 〔第6回〕 テキストの輪読（第6章 冷戦後の協調、紛争と引火点）
- 〔第7回〕 テキストの輪読（第7章 グローバリゼーションと相互依存）
- 〔第8回〕 テキストの輪読（第8章 情報革命と脱国家的主体）
- 〔第9回〕 テキストの輪読（第9章 未来に何を期待できるか?）
- 〔第10回〕 履修者による発表1
- 〔第11回〕 履修者による発表2
- 〔第12回〕 履修者による発表3

#### ◆テキスト

・ジョセフ・S. ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ（田中明彦、村田晃嗣訳）『国際紛争——理論と歴史〔原書第9版〕』（有斐閣、2013年）ISBN 978-4-641-14905-2

ただし講義要項が配布されるまでに新版や改訂版が出版された際には、新しいほうを使用します。

#### ◆参考文献

・テキスト巻末に掲載されている文献を適宜参考にしてください。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回あらかじめテキストを読んで講義に臨んでください。国際政治学はもちろん政治学にも縁のなかった学生は初めて知る言葉や概念があると思いますが、テキストがしっかりしているので心配無用です。分からないことがあれば講義担当者が解説をするので、過度に恐れなくてください。大切なのは能動的に学ぶ姿勢です。

#### ◆成績評価方法

平常点（50％）に加えて、履修者による個別発表（25％）、そして授業最終日を期限とするレポート（25％）で総合的に評価します。

科目	政治過程論	2単位
担当	講師 池田豊彦	

明治以降の中央集権制度が疲弊して社会環境の変化に対応できなくなり、住民に身近な政治・行政制度への移行を求める観点から地方分権改革が進展してきた。地方自治・地方分権を切り口に、制度論から自治体改革をめぐる実態を含めて検証し、現代日本の政治過程

を考察する。各回の講義概要は以下のとおり。

- 〔第1回〕 イントロダクションー社会病理現象と自治体の役割の変化
- 〔第2回〕 戦後の地方自治制度と分権型社会
- 〔第3回〕 地方財政の構造と課題
- 〔第4回〕 揺れる地方行政体制
- 〔第5回〕 「極点社会」の到来ー市町村は消滅するのか
- 〔第6回〕 道州制と大都市制度改革
- 〔第7回〕 地方議会の権能とその改革
- 〔第8回〕 ローカル・マニフェストとガバナンス
- 〔第9回〕 地方行政組織とその改革
- 〔第10回〕 「新しい公共」と市民の台頭
- 〔第11回〕 直接民主主義の可能性
- 〔第12回〕 総括

#### ◆テキスト

・指定なし。講義時にレジュメとプリントを適宜配布する。

#### ◆参考文献

・西尾勝『未完の分権改革』（岩波書店、1999年）  
・片山善博『日本を診る』（岩波書店、2010年）  
・松本英昭『自治制度の証言』（ぎょうせい、2011年）  
・江藤俊昭『自治体議会学』（ぎょうせい、2012年）  
・神野直彦・金子勝編著『地方に税源を』（東洋経済新報社、1998年）

など、地方自治・地方分権に関するもの。

#### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

#### ◆成績評価方法

最終日の試験を基本に、講義出席率を勘案する。

科目	日本政治史	2単位
担当	講師 小田義幸	

「歴史は過去のことだから」と言って歴史を敬遠するかもしれませんが、過去を学ぶことは現在・将来を生きるためには欠かせません。歴史認識をめぐる問題や過去の歴史に起因する問題が国内外で大きく取り上げられ、テレビや新聞などで日本の近現代史に接する機会も多くなっています。その一方で、学校などで近現代史を学ぶ機会が少ないため、先述の問題が現在の日本にとっていかに重要であるかが認識できず、自分自身の意見を持つことさえもままなりません。本講義では、近現代の日本政治外交史上、その後の日本の運命を左右する、もしくは、現在に至るまで影響が及ぶ重要な論点を取り上げ、今の価値観や見方にとらわれずに歴史を見つめ直し、歴史に関する知識を得るだけでなく、歴史の見方や歴史を学ぶ意味についても身につけてもらうつもりです。

- 〔第1回〕 オリエンテーション：日本近現代史の見方について考える
- 〔第2回〕 戦前、憲法上存在しない元老が政治を制御する役割を担ったのはなぜか？
- 〔第3回〕 日本が韓国を併合したのはなぜか？
- 〔第4回〕 明治憲法体制の下で政党内閣が誕生したのはなぜか？
- 〔第5回〕 政党政治が長く続かなかったのはなぜか？

**科目** 総合講座「アートやデザインで社会にかかわる学問  
ーアートベース・リサーチの多様性ー」 2単位

**担当** 文学部教授 岡原正幸 / 講師 後藤一樹  
講師 直井玲子 / 講師 山田 崇  
講師 坂倉杏介 / 講師 長津結一郎

講義要綱は82ページを参照してください。

## 他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★以下の科目の講義要綱は、文学部専門教育科目を参照してください。

哲学（専門） 2単位 講師 小草 泰  
講師 田子山和歌子

心理学（専門） 2単位 文学部教授 山本淳一

★以下の科目の講義要綱は、経済学部専門教育科目を参照してください。

計量経済学 2単位 講師 金 志映

社会思想史 2単位 講師 鈴木 平

社会政策 2単位 講師 齋藤香里

社会福祉論 2単位 講師 永井攻治

経済政策 2単位 講師 野口尚洋

金融論 2単位 講師 山上秀文

図書館・情報学 2単位 講師 長谷川豊祐

国際経済学 2単位 講師 久野 新

世界経済論 2単位 講師 宮崎礼二

経済地理 2単位 講師 花島誠人

経営学 2単位 商学部教授 菊澤研宗

産業関係論 2単位 商学部教授 八代充史

- 〔第6回〕 軍人によるテロ・クーデターが相次いだのはなぜか？
- 〔第7回〕 日中戦争が勃発したのはなぜか、また、それが長期化したのはなぜか？
- 〔第8回〕 日本がドイツと軍事同盟を結んだのはなぜか？
- 〔第9回〕 日本がアメリカとの戦争を回避できなかったのはなぜか？（前編）
- 〔第10回〕 日本がアメリカとの戦争を回避できなかったのはなぜか？（後編）
- 〔第11回〕 日本が早期に戦争を終結させることができなかったのはなぜか？

〔第12回〕 総括

### ◆テキスト

・特にテキストは指定しません。

### ◆参考文献

- ・鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』（山川出版社、2013年）
- ・北岡伸一『日本政治史 外交と権力』（有斐閣、2011年）
- ・北岡伸一『日本の近代5 政党から軍部へ 1924～1941』（中央公論新社、2013年）
- ・戸部良一『シリーズ日本の近代 逆説の軍隊』（中央公論新社、2012年）
- ・佐々木隆『日本の歴史21 明治人の力量』（講談社、2010年）
- ・伊藤之雄『日本の歴史22 政党政治と天皇』（講談社、2010年）
- ・有馬学『日本の歴史23 帝国の昭和』（講談社、2010年）

※その他の文献については授業中に適宜紹介します。

### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

初學者でも受講可能ですが、歴史から遠ざかっている受講者には、参考文献にある『もういちど読む山川日本近代史』を予め一読することをお勧めします。

### ◆成績評価方法

最終日の試験（60%）＋小レポートなど（40%）

※1000～2000字程度の小レポートを2回ほど提出してもらおう予定です。

**科目** 日本政治論 2単位

**担当** 法学部教授 小川原正道 / 講師 門松秀樹

本講義では、日本における統治を考える上で欠くことのできない重要な要素である政治と行政、そして両者をつなぐ政官関係の観点から、日本政治を考察したいと考えています。

本講義は、日本の政治・行政・政官関係のそれぞれの論点について、歴史的な視点を踏まえ、その問題の原因や経緯・展開がいかなるものであるかということも含めて論ずることで、現在の日本政治が直面している問題に対する理解を深めていくことを目的としています。

- 〔第1回〕 日本の憲法  
日本の憲法について、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点、共通点に着目して考察します。

- 〔第2回〕 国会  
日本の議会について、各国と比較しながらその機能について考察します。

- 〔第3回〕 日本の政党  
日本の政党について、戦後の政党制の変遷に着目して分析します。

- 〔第4回〕 利益集団  
日本の利益集団について、その運動形態の特徴に着目しながら考察します。

- 〔第5回〕 日本の行政（1）  
日本の行政について、「割拠主義」（セクショナリズム）に着目して、その特徴を分析・考察します。

- 〔第6回〕 日本の行政（2）  
日本の官僚制度における特徴である「キャリア制度」の概要と、「天下り」との関係などの問題点について分析・考察します。

- 〔第7回〕 日本の行財政改革（1）  
日本の行財政改革のうち、占領期における「戦後改革」について、その概要を説明した上で分析・考察を進めます。

- 〔第8回〕 日本の行財政改革（2）  
成果を取めることができた日本の行財政改革として、鈴木善幸内閣・中曽根康弘内閣の下で展開された「第2次臨時行政調査会」（「中曽根行革」）について、その概要を説明します。

- 〔第9回〕 日本の行財政改革（3）  
第8回に続き、「第2次臨時行政調査会」（「中曽根行革」）に関する分析・考察を進めます。

- 〔第10回〕 日本の政官関係（1）  
日本の政官関係について、行政（官僚）の在り方とその変化について概要を説明します。

- 〔第11回〕 日本の政官関係（2）  
「官僚主導」や「政治主導」など、政官関係をめぐる様々な議論を念頭に置いた上で、あるべき政官関係について分析・考察を進めます。

- 〔第12回〕 総括  
講義内容に関する試験を実施します。

### ◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

### ◆参考文献

- ・大石眞監修／縣公一郎・笠原英彦編著『なぜ日本型統治システムは疲弊したのかー憲法学・政治学・行政学からのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2016年）
- ・笠原英彦・桑原英明編著『日本の政治と行政〔改訂版〕』（芦書房、2015年）
- ・大山耕輔監修／笠原英彦・桑原英明編著『公共政策の歴史と理論』（ミネルヴァ書房、2013年）

### ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

### ◆成績評価方法

出席および最終日に実施する試験の結果によるものとします。

## アートやデザインで社会にかかわる学問 —アートベース・リサーチの多様性—

コーディネーター：文学部教授 岡原正幸

### ◆概要

アートやデザインという実践や発想を研究のプロセスやアウトプットとして使うとはどのようなことなのだろうか。私たちは、学問や科学というと、十分に吟味され定義された言語で、論理的に事象を説明することだと考える。しかし、それは自然事象にはうまく適用されても、人間が生きることにはどのように関われるのか。涙を化学反応として説明することが可能だとして、その涙を流した人間について私たちはどのような態度をとれるだろうか。従来の科学的な姿勢は不十分である。アートやデザインという発想には、従来の科学的な活動を超越して、人が人についてどのように関われるのかについてのヒントが隠されている。今回のシリーズでは、人文社会科学において全く新たな方向性を打ち出すアートベース・リサーチについて、その多様性や可能性をみていきたい。

- 〔第1回〕 9月22日 岡原正幸「アートベース・リサーチという出来事」
- 〔第2回〕 9月29日 後藤一樹・岡原正幸「〈科学〉としての映像——記号学・記号論から映像人類学・映像社会学へ」
- 〔第3回〕 10月6日 後藤一樹・岡原正幸「〈アート〉としての映像——日本のフィクション映画・ドキュメンタリー映画を中心に」
- 〔第4回〕 10月13日 後藤一樹・岡原正幸「〈虚〉と〈実〉のはざまにある映像——身のまわりの映像メディアから現代社会を考える」
- 〔第5回〕 10月20日 直井玲子「演劇ワークショップに何ができるのか、できないのか」
- 〔第6回〕 10月27日 山田崇「地方創生と官民協働——MICHIKARA地方創生協働リーダープログラム」
- 〔第7回〕 11月10日 坂倉杏介「現代社会の居場所とエンゲージメント」
- 〔第8回〕 11月17日 坂倉杏介「創発するコミュニティのプラットフォーム」
- 〔第9回〕 12月1日 岡原正幸「三田の家というレガシー」
- 〔第10回〕 12月8日 長津結一郎「アートプロジェクトとソーシャル・インクルージョン」
- 〔第11回〕 12月15日 坂倉杏介「コミュニティとテクノロジーの共進化に向けて」
- 〔第12回〕 12月22日 岡原正幸「身体・学問・公共性」

### ◆テキスト

- ・教科書は指定しない。
- ・講師ごとに資料・プリントを配布する場合がある。

- ◆参考文献
  - ・特になし。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
  - 特になし。
- ◆成績評価方法
  - レポートによる。

MEMO